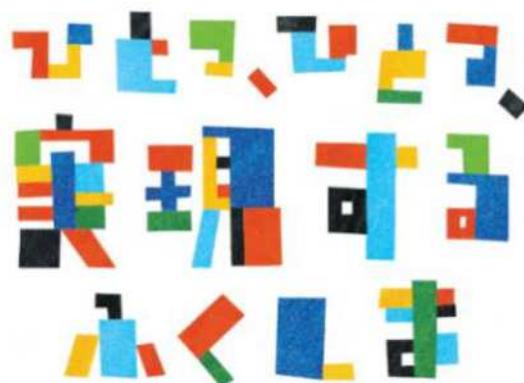


# 福島県文化振興基本計画 の進行管理について

育み、つなぎ、創造していく「ふくしまの文化」  
～人と地域が元気にあふれ、心豊かなふくしまへ～



# 福島県文化振興基本計画の施策体系

## 基本目標

育み、つなぎ、創造していく「ふくしまの文化」  
～人と地域が元気にあふれ、心豊かなふくしまへ～

## 施策展開の視点

◆ 県民一人一人が文化の担い手

◆ 多様で特色ある地域資源・文化施設をいかす

◆ 文化振興を地域の活性化にいかす

## 施策体系

1 県民の文化活動の促進	2 芸術の鑑賞 その他文化に接する 機会の拡充	3 青少年の文化活動の促進	4 伝統文化の継承及び発展	5 生活文化の充実	6 文化活動を行う拠点の機能の充実	7 文化の交流の推進	8 文化振興による地域づくり
条例第7条第2項第2号	条例第7条第2項第3号	条例第7条第2項第7号	条例第7条第2項第4号	条例第7条第2項第5号	条例第7条第2項第8号	条例第7条第2項第6号	条例第7条第2項第9号
(1)文化意識の醸成	優れた文化芸術に親しむ機会の充実	(1)鑑賞機会等の充実	(1)伝統文化の継承と発展	(1)食文化の継承と振興	文化施設の機能の充実・連携の促進	(1)文化の発信と交流の充実	文化資源をいかした産業等の振興・地域づくり
(2)文化の振興を担う人材の育成・確保		(2)学校教育等における文化活動の促進	(2)文化財の保存と活用	(2)生活文化等の振興		(2)東日本大震災・原子力災害からの復興と教訓の発信	
(3)文化活動への支援の充実							

## デジタル技術の活用の促進

デジタル技術を活用した創作活動の促進、活動成果の発表・鑑賞機会の充実、記録・映像の保存の充実、交流の促進 など

**SDGsの理念（誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会）の反映**  
性別や年齢、障がい等に関わりなく文化活動に取り組める環境づくり、多様な価値観の尊重、文化遺産の保護・保全 など

## 推進施策1 県民の文化活動の促進

県民の文化活動が促進されるよう各種施策に取り組みます。

- (1) 文化意識の醸成
- (2) 文化の振興を担う人材の育成・確保
- (3) 文化活動への支援の充実

### 令和6年度の主な取組

#### (1) 文化意識の醸成

##### ○ 第63回福島県芸術祭（文化振興課）【1,000千円】

県民による文化の公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞機会の提供及び芸術文化団体等の活動促進を目的として開催し、もって本県における芸術文化の振興を図っています。

■ 主催行事：29件、参加行事：84件

■ 開幕式典・開幕行事：令和6年9月1日（日）

富岡町文化交流センター学びの森 入場者数約800名

##### ○ 県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【予算なし】

県民の多様な学習ニーズや学習活動の広域化に対応していくため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を提供しています。

■ 県民カレッジ連携講座（受講生の対象地域を1市町村に限定しないで、他市町村の住民も参加できる講座）を福島県生涯学習情報システム（ふくしまナビi）や「県民カレッジ情報ボックス」（ヨークベニマル等）にて情報提供しました。

##### ○ 生涯学習推進市町村支援事業（生涯学習課）【1,102千円】

福島県生涯学習情報システム（ふくしまナビi）の保守及び機能充実を図り、講座を主催する市町村等が学習者のニーズに応じた魅力ある講座を県民に提供することにより、県民の学習参加と成果活用の促進し、自己実現と地域発展を支える本県生涯学習社会の実現を図っています。

■ 福島県生涯学習情報システム（ふくしまナビi）に、新たに、①講座年度管理機能、②講座別受講者アンケート集計機能、③ユーザー管理機能を搭載し、県内の生涯学習関連情報を提供しました（令和6年12月31日現在）。

◆ アカウント与数：市町村305、県96、民間教育施設・高等教育機関・民間企業55

◆ 登録団体数：市町村59、県16、民間教育施設・高等教育機関・民間企業44

◆ 講座・イベント登録数：7156（非公開 6083 公開 1073）

#### (2) 文化の振興を担う人材の育成・確保

##### ○ アートマネジメント人材育成モデル事業（文化振興課）【15,000千円】

公共ホール職員のアートマネジメント能力（企画・制作能力及びコーディネート能力）の向上を目的として、（公財）福島県文化振興財団及び（一財）地域創造と共催で、研修会やアウトリーチを実施しています。

- アートマネジメント／ワークショップ研修会の開催
  - 文化施設職員、自治体職員、文化芸術関係者を対象として、ワークショップの手法やコーディネート術など、アートマネジメントに必要な知識を習得する研修会を開催
- 県内各地におけるワークショップ
  - 県内の公共ホール 3 箇所と連携して、演劇とダンスを組み合わせたオリジナルのワークショッププログラムを創作し、小学生及び障がい者を対象に県内 4 市町で実施
  - 連携先：（公財）会津若松文化振興財団、（公財）南相馬市文化振興事業団、三春町教育委員会

### （3）文化活動への支援の充実

#### ○ 福島県文化功労賞表彰（文化振興課）【1, 644千円】

本県の文化の振興・発展を図るため、多年にわたり本県文化の向上に著しい業績を表した個人を表彰しています。

- 芸術（美術） 遠藤徳氏（本宮市 本宮美術協会顧問）
- 体育（スポーツ） 加藤出氏（川俣町 国際弓道連盟会長兼全日本弓道連盟会長）

#### ○ 顕彰事業（公益財団法人福島県文化振興財団）【財団予算】

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、文化活動に関し優れた成果を収め、本県文化の普及、向上、保存及び伝承に貢献した個人または文化団体等を表彰しています。

- 個人3名を表彰

#### ○ 助成事業（公益財団法人福島県文化振興財団）【財団予算】

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、個人または文化団体等の活動を援助・奨励し、本県文化の普及、向上、保存を図っています。

- 文化団体等の事業53件への助成を内定。

### 令和7年度の主な取組予定

- 第64回福島県芸術祭（文化振興課）【1,000千円】
- 県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【予算なし】
- 学びあう生涯学習社会形成事業（生涯学習課）【1,328千円】
- アートマネジメント人材育成モデル事業（文化振興課）【15,000千円】
- 福島県文化功労賞表彰（文化振興課）【1,671千円】
- 顕彰事業（公益財団法人福島県文化振興財団）
- 助成事業（公益財団法人福島県文化振興財団）

# 指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

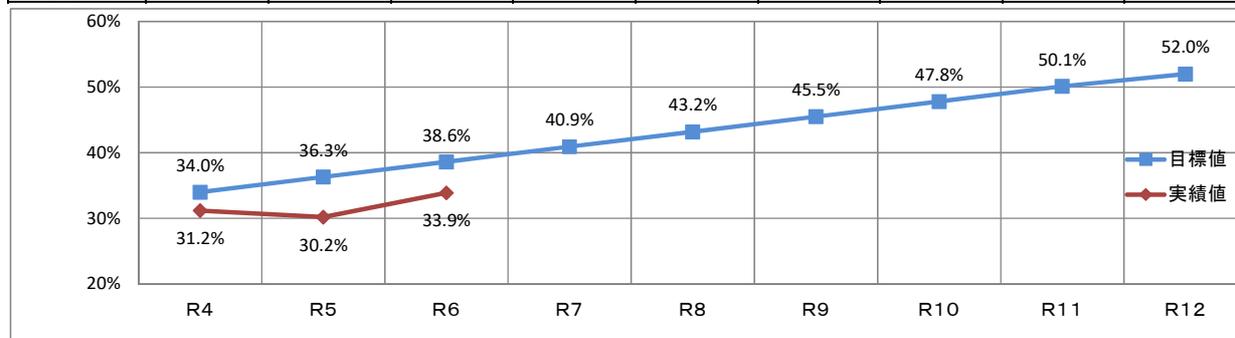
## No.1 文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していると回答した県民の割合(鑑賞を含む)【目標値:52.0%以上(令和12年度)】

評価

B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	34.0%	36.3%	38.6%	40.9%	43.2%	45.5%	47.8%	50.1%	52.0%
実績値	31.2%	30.2%	33.9%						



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>有観客での各種イベント等が再開されるなど、鑑賞や参加する機会が徐々に増えてきている。県総合美術展覧会における入選作品のウェブ展示や県文学賞における電子データでの作品応募受付など、デジタル技術を活用した文化活動に触れ親しむ機会の拡大に取り組んできている。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル技術の活用による文化の鑑賞機会、活動機会の拡充に継続して取り組み、あらゆる県民が身近に文化に触れ親しむことができる環境づくりを進めていく。</li> <li>市町村や各ホールと連携し、県民の主体的な文化活動につながるワークショップや出前講座など住民参加・体験型事業の拡充に努めていく。</li> <li>次代の文化の担い手となる青少年の文化活動を促進し、生涯にわたり文化に高い関心を持つ環境づくりを進めていく。</li> </ul>

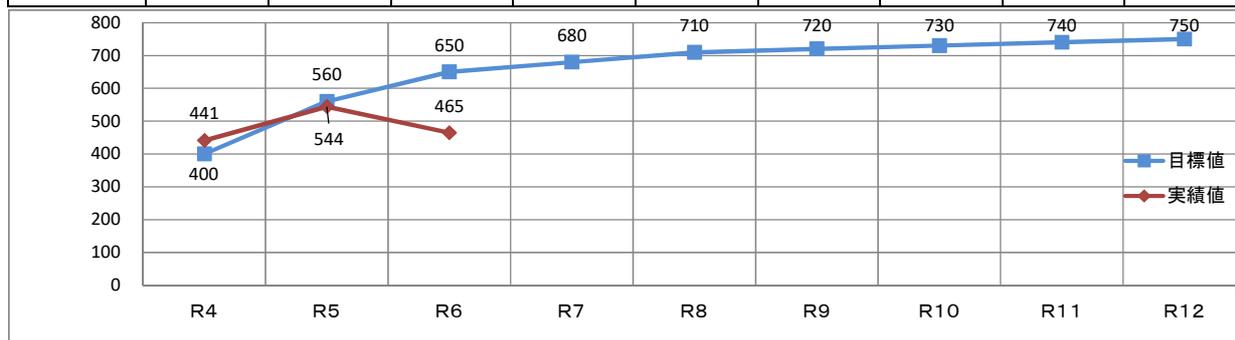
## No.2 市町村生涯学習講座受講者数(人口千人あたり)【目標値:750人(令和12年度)】

評価

A  
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	400	560	650	680	710	720	730	740	750
実績値	441	544	465	12月末時点					



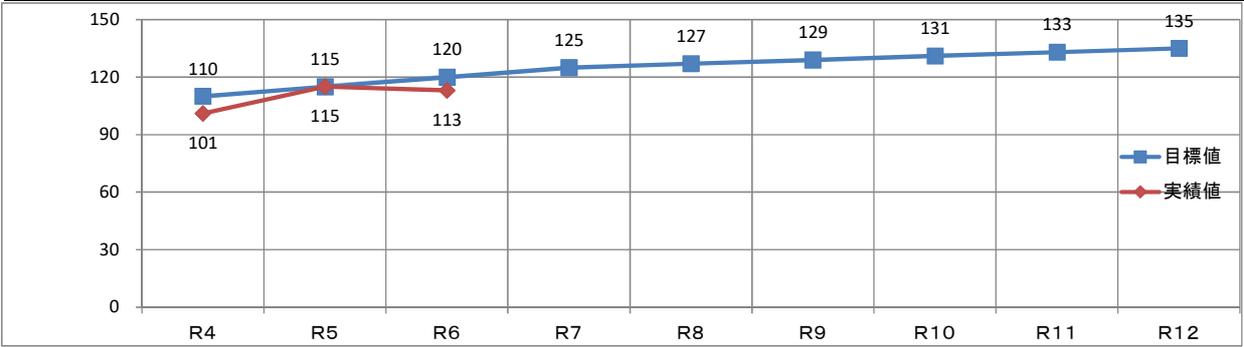
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度は、コロナが5類感染症に位置づけられ、行動制限が緩和されるとともに、新しい生活様式の日常化により、これまで自粛や中止となっていた講座やイベントが再開されたため、令和4年度に比べ参加者数が増加した。</li> <li>令和6年度は、12月31日時点で465人(人口1,000人あたり)だが、参加者が伸びた令和5年度の同時期の実績値が387人であったことから、令和6年度の最終実績値は、令和5年度の実績値を大きく上回り、年度目標値を超える見通しである。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県生涯学習情報提供サイト(ふくしまナビ)から、県内各地で行われる講座やイベントの情報がタイムリーに発信されるよう、市町村を始め登録団体等へ情報の登録を呼びかける。</li> <li>ふくしまナビから講座情報等を登録・発信する方々や、サイトから情報を入手する県民の方々の利便性を向上につながるシステムの拡張及び改装等を行う。</li> <li>より県民のニーズに応じた講座が増えるよう、市町村の要請等に応じて講座を企画する際の資料提供や市町村訪問の機会などを設ける。</li> </ul>

**No.3 福島県芸術祭参加行事数**  
【目標値:135件以上(令和12年度)】

評価
<b>B</b>

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	110	115	120	125	127	129	131	133	135
実績値	101	115	113						

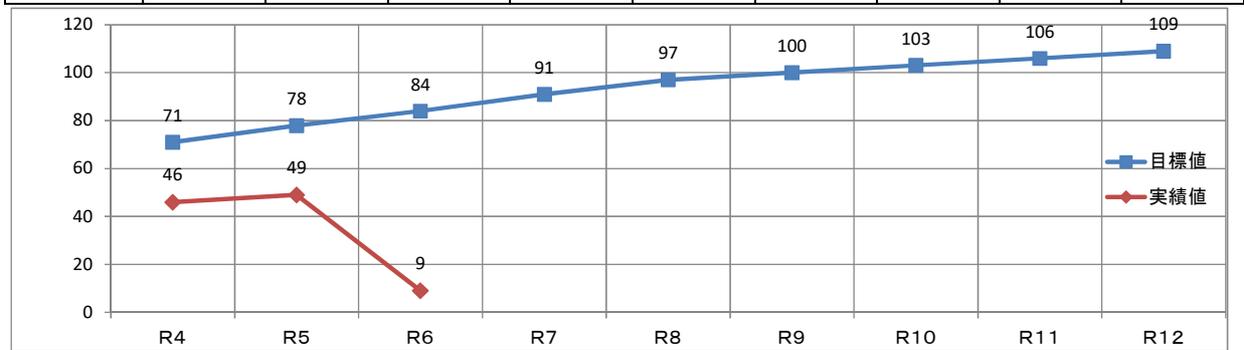


達成見込	・今年度は前年度に開催されていた周年行事が開催されないなどにより全体件数が減少となったが、それらを除くとほぼ横ばいの件数となっている。
今後の取組	・県芸術文化団体連合会や特に重点地区内市町村と連携して、各地域で実施している文化行事の芸術祭への参加促進を図るとともに、芸術祭の認知度を高めるために、積極的に広報・周知等を行っていく。

**No.9 福島県文化センター利用料金免除件数**  
【目標値:109件(令和12年度)】

評価
—

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	78	84	91	97	100	103	106	109
実績値	46	49	9						



達成見込	・大規模な改修工事を実施するため、令和6年7月15日より文化会館を休館したことから、令和6年度の実績は4月～7月までの実績は9件となっている。
今後の取組	・引き続き、改修工事を着実に実施する。 (改修工事終了後、令和8年7月以降で開館の準備が整い次第、文化会館の再開を予定している。)

## 推進施策2 芸術の鑑賞その他文化に接する機会の拡充

県民が身近なところで容易に文化に接することができる機会を拡充します。

### (1) 優れた文化芸術に親しむ機会の充実

#### 令和6年度の主な取組

### (1) 優れた文化芸術に親しむ機会の充実

#### ○ 県立美術館の企画展・常設展開催（社会教育課）【121,930千円】

特別なテーマによる企画展を開催するとともに、企画展や常設展と連動した鑑賞講座、講演会等を開催しています。

##### 【12月末現在】

- ①企画展「美人画の雪月花 培広庵コレクション展」 講演会1回、トーク2回
- ②企画展「福島の美術家たち2024」展 記念鼎談1回
- ③企画展「みんなの福島県立美術館」展 講演会2回、ギャラリートーク1回
- ④企画展「ポップ・アート 時代を変えた4人」展 講演会1回、  
ギャラリートーク3回
- ⑤常設展 常設トーク3回

#### ○ 県立美術館の教育普及講座（社会教育課）【1,495千円】

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催しています。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っています。

##### 【12月末現在】

- ①鑑賞プログラム 4回開催、
- ②創作プログラム 8回開催
- ③図書館との連携講座「アートなおはなしかい」 1回開催
- ④学校連携共同ワークショップ 10校、参加者数405名

#### ○ 県立博物館の企画展開催経費（社会教育課）【27,513千円】

特別なテーマによる企画展を開催するとともに、企画展と連動した講座、講演会等を開催しています。

##### 【12月末現在】

- 3つの企画展と関連した解説会や講座・講演等のイベントを実施（イベント数30、参加者1,169名）

#### ○ 県立博物館の学校教育・生涯学習支援活動（社会教育課）【5,232千円】

学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演等を実施しています。

【12月末現在】

- 各分野の講座や講師派遣、ゲストティーチャーを実施した。
- 分野講座（テーマ展開連、共催・後援事業、特別講座、三の丸P 関連、その他イベント含む）65回 8,081人、講師派遣受講985人、ゲストティーチャー受講1,964人

○ **第18回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19, 198千円】**

全国トップレベルの声楽アンサンブルグループによるコンテストを開催し、音楽文化の更なる発展を図るとともに、歌うことの楽しさや「合唱王国ふくしま」を全国に発信します。

- 開催日：令和7年3月20日（木・祝）～3月23日（日）
- 20日～22日に部門別コンテスト（小学校・ジュニア、中学校、高等学校、一般の4部門）を行い、23日に本選を行う。
- 出場団体数（予定）：135団体
- オンライン配信を実施

○ **障がい者の社会参加促進事業（障がい福祉課）【13, 640千円】**

障がい者芸術文化活動の推進、ふくしま共生サポーターの養成、民間活動の支援、普及啓発活動の推進により県民の理解を深め障がいのある方が社会参加しやすい機運の醸成を図るとともに、芸術文化活動の推進を通して障がいのある方の活躍を促進し障がいのある方がいきいきと暮らせる社会の実現を目指しています。

- 障がい者芸術作品巡回展「きになる☆ひょうげんリターンズ2024」を県内3カ所で開催し、障がい者芸術作品展「きになる☆ひょうげん2023」の受賞作品を展示
  - 開催場所：白河市、福島市、いわき市
- 障がい者芸術作品展「きになる☆ひょうげん2024」
  - 開催場所：はじまりの美術館（猪苗代町）
  - 開催期間：令和6年11月23日（土）～令和7年1月19日（日）
  - 応募作品数435点 来場者数1,428名
- 障がい者芸術文化活動支援センター運営支援
  - 障がい者の芸術文化活動に関する相談支援や人材育成、情報収集・発信等を行う障がい者芸術文化活動支援センターを設置する法人へ補助を行った。

○ **うつくしま、ふくしま。健康福祉祭開催事業（健康づくり推進課）【1, 864千円】**

高齢者の健康と生きがいを推進し、社会活動の振興を図るため、「福島県シルバー美術展」を開催し、高齢者が制作している作品の展示を行っています。

- 開催場所：とうほう・みんなの文化センター
- 開催期間：令和6年7月6日（木）～7月11日（木）
- 応募作品数299点 入場者数958人

## 令和7年度の主な取組予定

- 県立美術館の企画展・常設展開催（社会教育課）【81,472 千円】
- 県立美術館の教育普及講座（社会教育課）【1,537 千円】
- 県立博物館の企画展開催経費（社会教育課）【23,027 千円】
- 県立博物館の学校教育・生涯学習支援活動（社会教育課）【5,350 千円】
- 第19回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,198 千円】
- 障がい者の社会参加促進事業（障がい福祉課）【13,158 千円】
- うつくしま、ふくしま。健康福祉祭開催事業（健康づくり推進課）【1,864 千円】
- 国際芸術鑑賞事業（文化振興課）【2,157 千円】

# 指標から見た施策の進捗状況

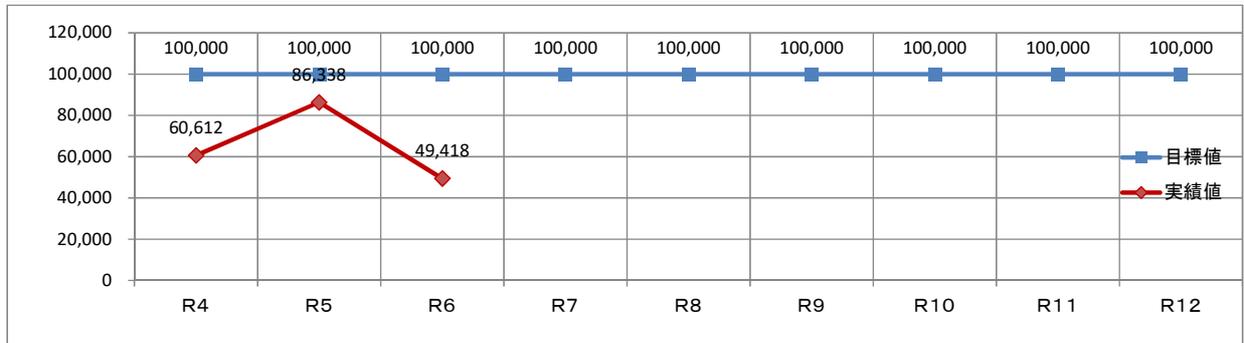
【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

## No.4 県立美術館の入館者数 【目標値:100,000人(令和12年度)】

評価  
D  
(見込)

### ※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
実績値	60,612	86,338	49,418	12月末時点					



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度は、大規模企画展を4月から8月にかけて2展実施するなど集客に努めた結果、目標達成とまではならなかったが、前年度比1.4倍となった。令和6年度は、観覧者アンケートで「今後見たい企画展」の上位にある日本画展や開館40周年記念展等を開催するとともに、「トークフリーデー」など新たな取組の実施や、美術に関心の薄い層にもアピールできるよう、テレビ・雑誌・新聞など、幅広いメディアへの掲載を強化したものの、大規模企画展のような継続した広報とまではいかず、12月末時点で目標達成率49.4%となっており、目標達成は困難な見込みである。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館者のアンケート結果や、他館の入館状況も踏まえ、人気の高い大型企画展や注目度の高い自主企画展など、県民等のニーズに即した企画展をバランスよく開催する。</li> <li>企画展との連動や時節に即した内容を考えながら、常設展を企画する。</li> <li>新聞、テレビ、HP、SNSなど多様な媒体を活用し、どの年齢層にも、企画展の内容や魅力を、わかりやすく伝わるような表現で、企画展開始前から繰り返し広報する。</li> <li>安心して来館いただける環境を維持する。そのために、美術館への要望のうち、対応できる内容については、可能な限り速やかに対応する。</li> </ul>

## No.5 県立博物館の入館者数 【目標値:129,000人(令和12年度)】

評価  
B  
(見込)

### ※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	105,500	116,500	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000
実績値	188,323	96,274	105,505	12月末時点					



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年2月に排煙設備の不具合により、総合展示室を観覧休止としており、各学校の団体利用については、問い合わせの際に個別に事情を説明し、御理解いただいたうえで総合展示室以外の展示を観覧いただいていたが、その影響もあり、例年より小中学校団体利用が減少するなど、特に学校教育活動における影響が大きい。</li> <li>今年度は、自主開催のみの企画展であったことや、12月2日からトイレ改修工事による全館休館(予定では3月31日まで)となったため、目標としていた入館者数に及ばず、目標は未達成となった。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合展示室の排煙窓については、工事を実施中であり、建築基準法施行令第126条の2(排煙設備の設置)に適合させ、令和7年4月に全館の観覧再開を目指す。</li> <li>トイレの洋式化、段差の解消などのバリアフリー化の工事を実施中であり、障がい者や乳幼児のいるファミリー層、高齢者も安心して観覧できる環境整備を行う。</li> <li>展示室のサイン表示・解説等の多言語化、スマホ等で観覧や周遊のための情報を入手できるコンテンツ配信システムについて令和7年4月の全館観覧再開時から運用開始することにより、来館者の利便性向上と、インバウンド、外国語ユーザーが増につなげる。</li> <li>三の丸からプロジェクトの成果継承や発展を目指し、関係機関と事業体制や取組内容について検討していく。</li> </ul>

**No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数**  
【目標値:75,000人(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	50,000	57,000	63,000	65,000	67,000	69,000	71,000	73,000	75,000
実績値	80,119	93,759	71,398	12月末時点					

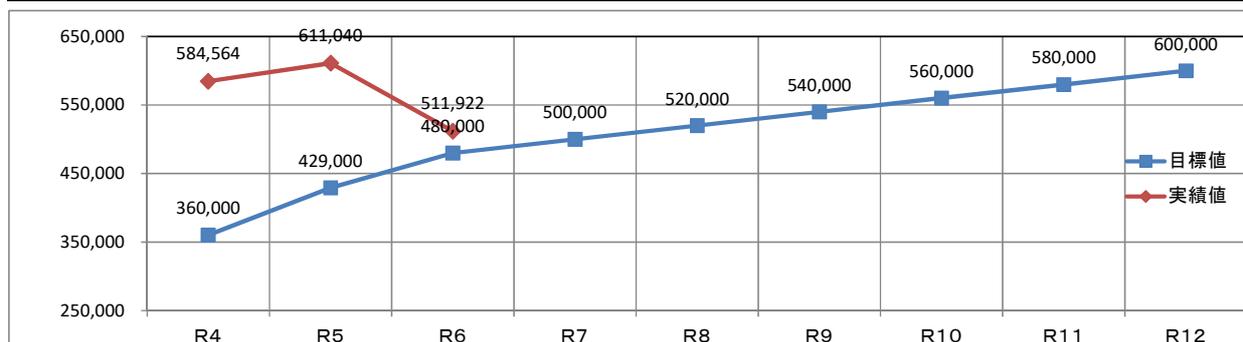


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度以降、入館者数・研修参加者数のいずれも、令和12年度の目標値を既に上回って推移している。</li> <li>令和6年度の入館者数であるが、令和5年12月31日時点で77,712人であったことを踏まえると、令和5年度比ではやや減少する見込みである。</li> <li>令和6年度の研修参加者数は、令和6年12月31日時点で、昨年度同時点での12,286人とほぼ同程度の参加者数であることから、令和5年度並の参加者を見込んでいる。</li> <li>新型コロナによる行動制限期間中は、伝承館のように静かに見学できる博物館等が教育旅行先等に採用されてきたが、令和5年度に第5類に移行し行動制限が解除されたことにより、訪問先として観光地等が選好され、入館者数が伸び悩んでいる。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝承館としての学びの魅力を維持・向上させていくため、計画的で分かりやすい展示内容の更新、魅力的な企画展の開催、研究事業の成果を踏まえた研修プログラムを充実させていく。</li> <li>地元自治体や商工団体、農業団体、福島イノベーション・コースト構想の各拠点などの関係団体等と連携しながら、情報発信やプロモーション活動に取り組むことで、震災の教訓や復興する地域の姿、新たな魅力を発信していく。</li> <li>先月に発表した、主に中学生を中心とした事前学習教材を新たに導入することにより、次の世代を担う子供たちに、効果的で理解しやすい伝承館の見学に結びつける取り組みを行っていく。</li> </ul>

**No.7 アクアマリンふくしまの入館者数**  
【目標値:600,000人(令和12年度)】

評価
A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	360,000	429,000	480,000	500,000	520,000	540,000	560,000	580,000	600,000
実績値	584,564	611,040	511,922	12月末時点					



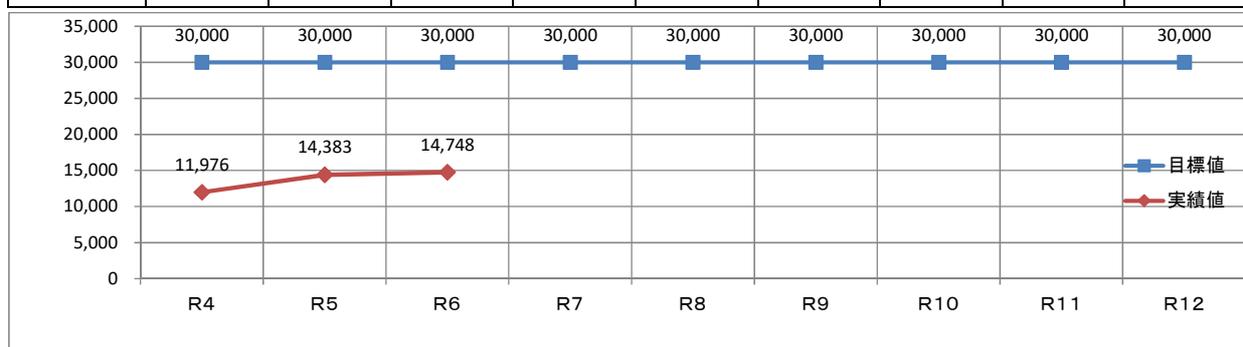
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>R6年度の入館者数は、魅力的な企画展の開催、積極的な情報発信により、引き続き、当館の魅力を広く発信できたことにより入館者数を伸ばし、既に目標を達成した。</li> <li>スクール開催事業は、業務量が膨大なことから、実施方法や回数、参加人数、広報などの見直しに加え、内容をより魅力的なものとしたことで、受講者数は既に目標を達成した。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>縄文の里のリニューアルなどにより、引き続き、施設の魅力を向上させてゆく。</li> <li>魅力ある企画開催事業を展開し、近隣施設と連携した情報発信を行っていく。</li> <li>スクール開催事業は、見直し後の実施結果を踏まえ、より魅力的なものとなるようブラッシュアップしていく。</li> <li>博物館法上の博物館として、学術的取組を始め、地域の観光・交流拠点としての役割を果たしていく。</li> </ul>

**No.8 県文化財センター白河館の入館者数**  
【目標値:30,000人(令和12年度)】

評価
D
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	11,976	14,383	14,748	12月末時点					



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層を中心に多くの参加があったイベント「まほろん感謝デー」や、大きな歴史的価値があり県内外から注目されている遺跡である「前田遺跡」出土品の特別展示の取組により、新規入館者やリピーターの増加につながっていることが、入館者の感想からうかがえた。</li> <li>・コロナ禍により、前年度前半まで厳しい状況が続いていたが、昨年度の1年間入館者数とほぼ同数が9か月間で達成されており、前年度に比して、着実に入館者数は回復していると考えられる。令和6年度は目標値の達成には及ばないものの、これらの工夫ある取組で前年度以上の入館者数を記録した。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者数の更なる増加に向けて、引き続き周辺部での取組である「おでかけまほろん」による文化財保護活用の啓発活動、発達段階や世代に応じたイベントや注目の遺跡に焦点を当てた特別展を企画立案し、実施していく。</li> <li>・HPでの発信やチラシ作成、学校への働きかけなど、広報活動への注力も入館者増加の一因となっていると考えられることから、今後も引き続き、幅広い年代に対して広報活動に力を入れていきたい。</li> </ul>

**No.9 福島県文化センター利用料金免除件数**  
【目標値:109件(令和12年度)】

評価
—

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	78	84	91	97	100	103	106	109
実績値	46	49	9						

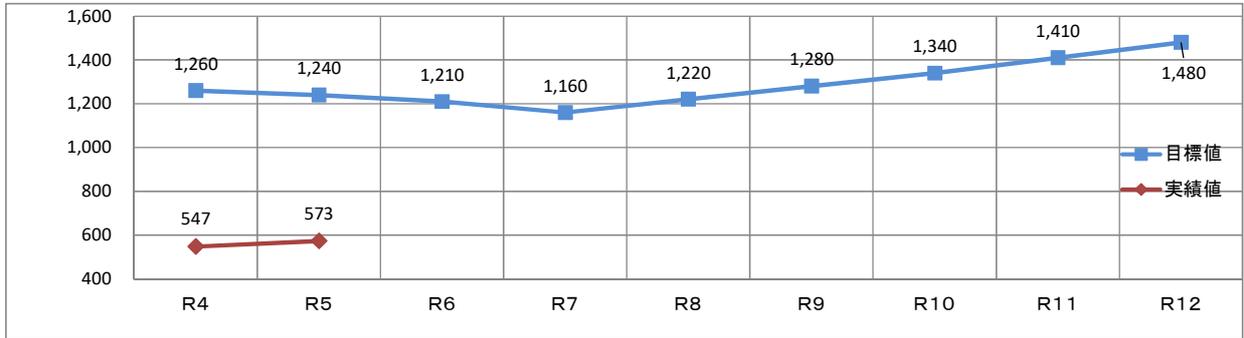


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な改修工事を実施するため、令和6年7月15日より文化会館を休館したことから、令和6年度の実績は4月～7月までの実績は9件となっている。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、改修工事を着実に実施する。(改修工事終了後、令和8年7月以降で開館の準備が整い次第、文化会館の再開を予定している。)</li> </ul>

No.10 声楽アンサンブルコンテスト全国大会のライブ配信視聴者数  
【目標値:1,480人(令和12年度)】

評価
—

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	1,260	1,240	1,210	1,160	1,220	1,280	1,340	1,410	1,480
実績値	547	573							



令和4年度と 令和5年度の 比較	<p>・R5年度の目標値は、コロナ禍により有観客での開催が制限されることを想定し設定していたが、会場での観覧が可能になったため、これに伴い配信視聴者数が目標値を下回った。なお、県内向けの広報を強化した結果、前年度より視聴者数は増加した。</p>
今後の取組	<p>・出演する団体の保護者など出場団体関係者へのより効果的な周知、SNSを活用した情報発信、全日本合唱連盟や各都道府県合唱連盟と連携したPRなど、きめ細かく積極的な広報を行い、大会及び合唱王国ふくしまの認知度向上を図り、来場者数、配信視聴者数の増加を目指す。</p>

## 推進施策3 青少年の文化活動の促進

青少年が身近な地域や学校において、その地域で育まれてきた文化を始め多様な文化に接する機会の充実を図るとともに、主体的に文化活動ができるよう環境の整備を図ることにより、青少年の文化活動を促進します。

- (1) 鑑賞機会等の充実
- (2) 学校教育等における文化活動の促進

### 令和6年度の主な取組

#### (1) 鑑賞機会等の充実

#### ○ 第78回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【15,770千円】

県内在住者及び県出身者から美術作品を公募し、一般に展覧することにより、本県美術の振興を図るとともに、優れた美術作品の鑑賞機会の拡充を図っています。

- 開催時期：令和6年6月14日(金)～6月23日(日)
- 開催場所：とうほう・みんなの文化センター
- 展示状況等：公募出品数598点【うち青少年（高校生以上20歳未満）157点】  
招待等出品数144点、陳列作品数615点（内訳：日本画60、洋画287、彫刻35、  
工芸美術60、書176）
- 受賞者79名（うち 青少年奨励賞は15名）、学校奨励賞1校
- 入場者数6,747人
- 美術奨励賞以上の入賞作品33点を県公式YouTubeにおいて公開
- 出張展を白河市で開催

#### ○ 第77回福島県文学賞（文化振興課）【4,051千円】

県内在住者及び県出身の学生・生徒から文学作品を公募し、成果発表の場を提供するとともに、優秀作品を顕彰することにより本県文学の振興と地域文化の進展を図っています。

- 募集期間：令和6年7月1日～7月31日
- 部門：小説・ドラマ、エッセー・ノンフィクション、詩、短歌、俳句の5部門
- 応募状況：応募総数250点【うち青少年（12歳以上20歳未満）56点】  
（内訳：小説・ドラマ59、エッセー・ノンフィクション38、詩40、短歌44、俳句69）
- 顕彰：令和6年11月3日（日・祝）に各部門の正賞、準賞等の入賞者を表彰  
受賞者24名（うち 青少年奨励賞は7名）
- 県文学賞講演会：県高等学校文化連盟と共同で開催。  
講師：くどうれいん氏（小説家） 参加者：約150名
- 県文学集 入賞作品を掲載した県文学集を令和7年3月に発行予定

#### ○ アートによる新生ふくしま交流事業（文化振興課）【18,490千円】

福島の未来を担う子どもたちがアート創作の機会を通して心豊かに成長する取組を実施

するほか、制作した作品の展示を行っています。

● **アートで広げる子どもの未来プロジェクト**

- 子どもたちに学校では体験できない創作の機会を提供する取組
- 9プログラムのワークショップを延べ47回開催、参加者数846名（12月末現在）

○ **ふくしま「若者×デジタル芸術×デジタル」推進事業（文化振興課）【18,053千円】**

県内の若い世代を対象に、デジタルツールを活用したメディア芸術をテーマに公募展覧会を開催するほか、特別講義やワークショップを通じてメディア芸術への関心を高め、青少年の文化活動の支援及び人材育成を図っています。

① 公募展覧会

- 応募作品数 187点（静止画部門：129点、動画部門：32点、テーマ部門：26点）
- 会津若松展：令和6年11月9日（土）～10日（日）  
スマートシティA i C T交流棟 入場者数335名
- 須賀川展：令和7年1月18日（土）～19日（日）  
須賀川市民交流センターtette たいまつホール 入場者数621名
- WEB展示：全ての応募作品について、特設ホームページで公開
- 特別講義：講師 伊藤有壺氏（アニメーションディレクター、東京藝術大学大学院教授）  
令和7年1月19日（日）須賀川市民交流センターtette で開催  
テーマ「これからのメディア芸術」 参加者31名

② ワークショップ

- 9プログラム、延べ14回開催 参加者数153名

○ **舞台芸術等総合支援事業（文化庁）[窓口：文化振興課]**

● 巡回公演事業

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による巡回公演を行うことにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図っています。

- 令和6年度採択 53校

○ **学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（文化庁）[窓口：文化振興課]**

● 芸術家の派遣事業

個人又は少人数の芸術家を小学校・中学校等へ派遣し、講話・実技披露、実技指導を行うことにより、子供たちの創造力、思考力などの能力の育成を図っています。

- 令和6年度採択 30校

**（2）学校教育等における文化活動の促進**

○ **福島県高等学校総合文化祭補助金（高校教育課）【1,000千円】**

福島県高等学校総合文化祭開催のため、福島県高等学校文化連盟とともに、福島県及び

福島県教育委員会が福島県高等学校総合文化祭を実施する場合に補助金を交付しています。

- 26部門の専門部において、第43回福島県高等学校総合文化祭を開催

#### ○ 中学校文化部活動体制整備促進事業（義務教育課）【7,087千円】

文化芸術等に親しむ機会を確保し創造性豊かな子どもを育成することを目的として、地域の持続可能で多様な文化芸術等に親しむ環境を整備し、地域全体で子どもたちの多様な文化芸術等の体験機会を確保するため、文化部活動の地域移行を促進し、部活動指導員配置に係る経費の一部を支援しています。

- 休日における文化部活動の地域移行を進めるため、会津若松市と石川町の2地区をモデル地区として委託し、児童生徒の文化芸術等の体験機会を確保した。
- 部活動指導員を配置する9市町の指導員25名を対象に、指導員配置に係る補助金を交付し、顧問となる教員の部活動従事時間を削減することで負担軽減を図った。

#### ○ ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト（社会教育課）【2,179千円】

福島県全体の読書活動について検討する場や中学生・高校生の情報発信能力を県内外に発信する場、幼児期の読書の大切さを広報する場を設定することにより、読書環境の改善を図っています。また、各地域で活躍できる読書活動支援者を育成するとともに、資質向上を図り、自立的・自発的に活動ができるよう支援しています。

- 読書活動推進事業  
6月と2月に推進会議を実施
- 読書活動支援者育成事業  
県内7地区で研修会を実施 受講者延べ290名
- ビブリオバトル福島県大会  
令和6年10月12日（土） 福島県立図書館  
発表者14名、観戦者161名  
※地区予選会 発表者74名、観戦者757名

### 令和7年度の主な取組予定

- 第79回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【28,858千円】
- 第78回福島県文学賞（文化振興課）【4,111千円】
- アートによる新生ふくしま交流事業（文化振興課）【9,632千円】
- ふくしまデジタルアート推進事業（文化振興課）【9,813千円】
- 子ども音楽体験支援事業（文化振興課）【2,759千円】
- 舞台芸術等総合支援事業、学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（文化庁）
- 福島県高等学校総合文化祭補助金（高校教育課）【1,000千円】
- 中学校文化部活動体制整備促進事業（義務教育課）【8,291千円】
- ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト（社会教育課）【2,184千円】

## 指標から見た施策の進捗状況

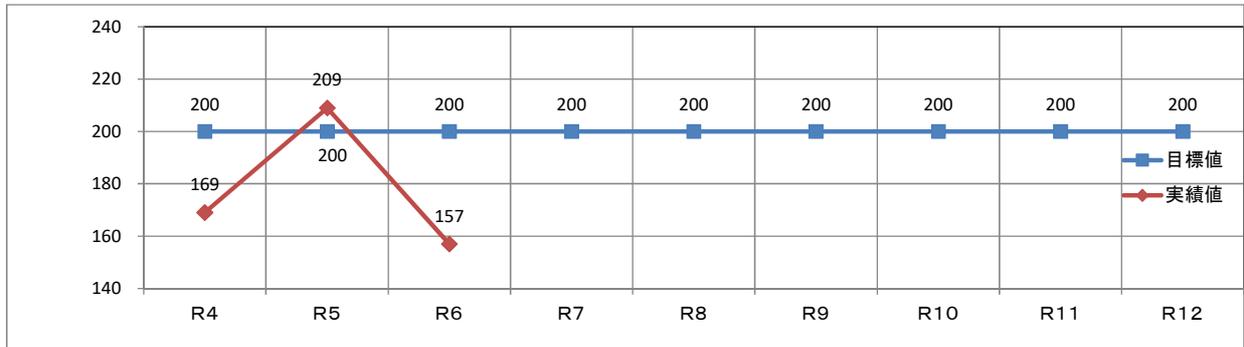
【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

### No.11 青少年の県総合美術展覧会への出品数 【目標値:200点以上(令和12年度)】

評価

C

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	200	200	200	200	200	200	200	200	200
実績値	169	209	157						



達成見込

・「青少年を対象とした若手作家交流会」や県展での出品者等研修会などにより、県展への関心を高める取組をしてきたが、青少年の活動の多様化、学校における部活動離れの影響により、目標値を下回った。

今後の取組

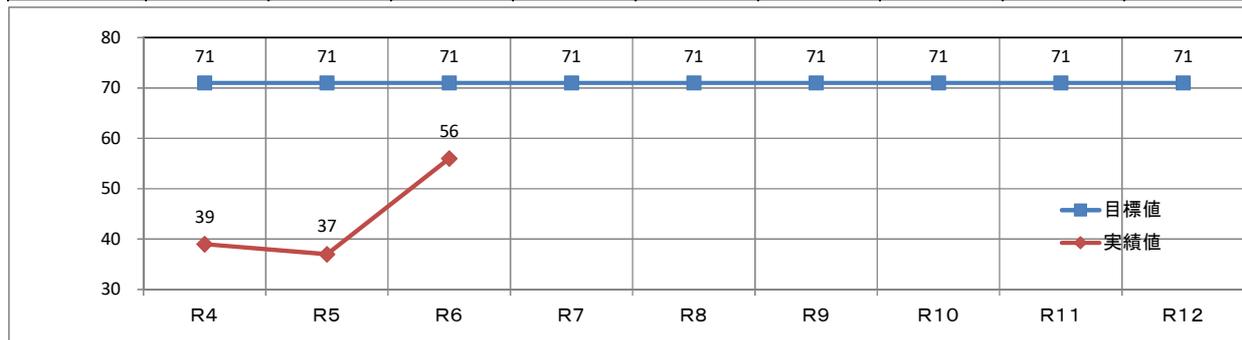
・青少年の文化への関心を高める取組を実施しており、引き続き、福島県高等学校文化連盟との連携を進めるなど、学校と連携して県展の魅力のPRを強化していく。

### No.12 青少年の県文学賞への応募数 【目標値:71点以上(令和12年度)】

評価

C

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	71	71	71	71	71	71	71	71
実績値	39	37	56						



達成見込

・高校生を対象とした講演会を開催し文学への関心を高める取組を実施しており、前年度より応募数は増加したが、目標値の達成に至っていない。

今後の取組

・中学校、高等学校、高文連文芸専門部と連携して県文学賞の学校への周知活動を行っていく。  
・若手作家の講演会開催など、青少年の文学への関心・興味が高まるような取組を進めていく。

## 推進施策4 伝統文化の継承及び発展

東日本大震災、原子力災害の影響が続いている本県では、伝統文化が地域の絆を支えてきた経験をいかしながら、文化財を含めた伝統文化を次世代に継承し、地域におけるまちづくりや観光などの資源として積極的に活用し発展させます。

- (1) 伝統文化の継承と発展
- (2) 文化財の保存と活用

### 令和6年度の主な取組

#### (1) 伝統文化の継承と発展

##### ○ 「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【20,546千円】

###### ● 民俗芸能公演事業

民俗芸能の継承を図るため、「ふるさとの祭り」を開催し、震災等の影響により、公演の機会のない民俗芸能団体を中心に芸能披露の場を提供しております。

- より多くの民俗芸能団体に芸能披露の機会を提供するため、他機関が主催するイベントに出張公演という形で積極的に参加するとともに、来場できない方にも芸能を鑑賞いただけるように動画を撮影し、県公式YouTubeで公開しています。

###### 【本体公演】

- ・日時：令和6年10月12日（土）、13日（日）
- ・場所：ビックパレットふくしま（こおりやま産業博2024）
- ・出演：12日 10団体、13日 9団体、計19団体      ・来場者数：3,389名

###### 【出張公演】

- ① 楽しいオーケストラ
  - ・日時：令和6年8月11日（土）
  - ・場所：けんしん郡山文化センター（楽しいオーケストラ in 福島）
  - ・出演：1団体      ・来場者数：552名
- ② ふたばワールド2024inひろの
  - ・日時：令和6年9月14日（土）
  - ・場所：学び舎 ゆめの森特設会場内（ふたばワールド2024 in ひろの）
  - ・出演：2団体      ・来場者数：4,500名
- ③ デフスポふくしま
  - ・日時：令和6年11月17日（日）
  - ・場所：Jヴィレッジ
  - ・出演：1団体      ・来場者数：482名

###### ● 民俗芸能復興サポート事業

専門家との連携により、芸能団体の活動再開から継続、担い手の育成まで、各団体の実情に応じた総合的、一体的な支援を行っています。

- 個別訪問 25団体（12月末時点）  
芸能団体を専門家が訪問し、個別具体的な助言指導を行っています。
- 学校との連携活動 6校（12月末時点）  
県内の小学校において、子ども向けのテキストを活用して民俗芸能の説明や地元等の民俗芸能の披露・体験等を実施し、子どもたちに民俗芸能の魅かね力等を感じてもらおう取組を行っています。

#### ○ 大学生と集落の協働による地域活性化事業（地域振興課）【8, 855千円】

過疎・中山間地域の集落の活性化を図るため、柔軟な視点や感性、行動力を持つ大学生等の力を活用し、県内外の大学生グループと集落との交流を通じた集落活性化の取組の実現・継続を支援します。また、地域活動の担い手不足の解消に向け、地域活動に関心の高い大学生等との橋渡しを行うことで、地域と多様かつ継続的に関わりを持つ関係人口の創出・拡大を図っています。

- 当該事業を活用し、県外の大学生グループが浪江町の民俗芸能保存会と協働して、イベントにおける民俗芸能の披露や民俗芸能の継承等に取り組んでいます。

#### ○ 進化する伝統産業創生事業（県産品振興戦略課）【27, 393千円】

伝統産業の後継者不足や消費者のライフスタイル・価値観の変化による需要減少等の課題解決に向け、後継者確保、人材育成を目的としたアカデミーやインターンシップを実施しています。

- ふくしまクリエイティブクラフトアカデミーの運営
  - マーケティング・ブランディング等に係る知識を習得し、販売力強化に向けたスキルアップを図るとともに、県内の各産地や若手職人等の連携を実現するために「ふくしまクリエイティブクラフトアカデミー」を実施する。
  - コシノジュンコ氏を校長に迎え、8月に開講。県内の伝統工芸に携わる職人・事業者や今後それらの担い手を目指す者が対象。28名が修了予定。
- インターンシップの実施
  - 伝統工芸や地場産業への関心が高い県内外の大学生等を対象に、技術や販売等の職場体験を通じた後継者確保を図ることを目的にインターンシップを実施する。
  - 受入事業者2社で参加研修生12名（令和6年12月26日現在）がインターンシップに参加予定。

### （2）文化財の保存と活用

#### ○ 伝統文化親子教室事業（文化庁）[窓口：文化振興課]

子どもたちに対して、民俗芸能、邦楽、日本舞踊、茶道、華道などの伝統文化に関する活動を体験・習得できる機会を提供しています。

■ 令和6年度採択 19教室

○ 指定文化財保存活用事業（文化財課）【37,265千円】

文化財の保存と活用を一体的に図るため、文化財の修復等保存事業と公開等活用事業を実施する場合に、補助金を交付しています。

- 当初予算で計上していた文化財に加えて、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震、令和5年9月8日に発生した台風13号により被災した文化財への補助金を交付するなど、計画的に実施している。

○ 文化財保存活用地域計画策定支援（文化財課）【予算なし】

文化財保存活用地域計画の策定を進める市町村に全国的な先行事例の紹介や災害発生時の文化財救援活動の手順、文化財の防災・減災のための調査の実施方法、文化財浸水ハザードマップの作成方法などについて、指導助言・支援を行っています。

○ 福島県文化財センター白河館の管理運営（文化財課）【302,721千円】

文化財等の保管・活用により、県民の文化の振興に資するため設置した福島県文化財センター白河館の維持管理を行うとともに、国民の財産である文化財の保存・公開・活用を通して文化財保護思想の普及啓発を図るための事業を展開しています。（施設の維持・管理運営事業）

**令和7年度の主な取組予定**

- 「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【20,340千円】
- 進化する伝統産業創生事業（県産品振興戦略課）【30,186千円】
- 伝統文化親子教室事業（文化庁）
- 指定文化財保存活用事業（文化財課）【37,265千円】
- 文化財保存活用地域計画策定支援（文化財課）【予算なし】
- 福島県文化財センター白河館の管理運営（文化財課）【310,191千円】

## 指標から見た施策の進捗状況

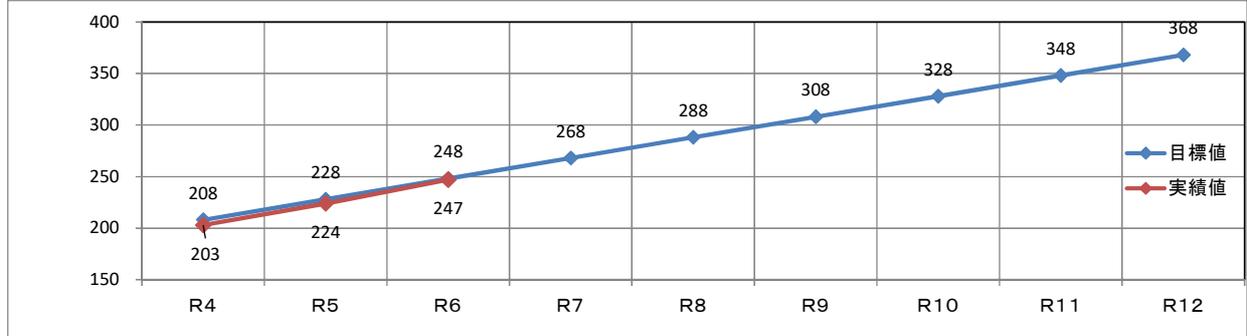
【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

### No.13 ふるさとの祭り参加民俗芸能団体数 【目標値:累計368団体(令和12年度)】

評価

B

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	208	228	248	268	288	308	328	348	368
実績値	203	224	247						



達成見込	「ふるさとの祭り」には本体公演と出張公演があり、今年度は本体公演に19団体、出張公演に4団体、合計23団体が参加し、多くの観客の前で民族芸能を披露いただいた。これにより、今年度までの累計参加団体数は247団体となり、概ね目標を達成した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、県内各地で開催される各種イベントにおいて、民俗芸能をより多くの県民に知ってもらう機会、芸能を披露する機会を確保する観点から、「ふくしまの祭り」として参加できるよう調整を進めていく。</li> <li>担い手の確保のため、地域の移住者、定住者や県内の学生などが、民俗芸能団体との連携や活動の協力をし、関係づくりに取り組んでいく。</li> </ul>

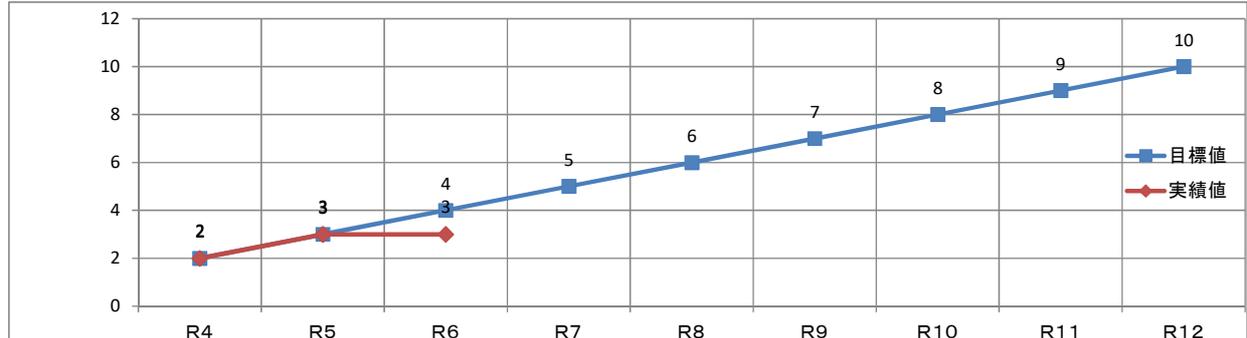
### No.14 市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数 【目標値:10市町村(令和12年度)】

評価

C

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	2	3	4	5	6	7	8	9	10
実績値	2	3	3						



達成見込	令和3年12月に白河市、及び令和4年7月に会津若松市、令和5年7月に喜多方市の文化財保存活用地域計画がそれぞれ文化庁の認定を受け、目標を達成した。次年度以降は6市町が策定に向けて調整中である。
今後の取組	令和4年度から文化財保存活用促進事業を立ち上げた。今後は先行事例の紹介や災害発生時の文化財救援活動の手順などの指導助言・支援を行う「市町村支援プログラム」も活用し、文化庁の補助事業等の情報も提供しながら、市町村に同計画の作成を促していく。

(再掲)No.8 県文化財センター白河館の入館者数  
【目標値:30,000人(令和12年度)】

評価
D
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	11,976	14,383	14,748	12月末時点					



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層を中心に多くの参加があったイベント「まほろん感謝デー」や、大きな歴史的価値があり県内外から注目されている遺跡である「前田遺跡」出土品の特別展示の取組により、新規入館者やリピーターの増加につながっていることが、入館者の感想からうかがえた。</li> <li>・コロナ禍により、前年度前半まで厳しい状況が続いていたが、昨年度の1年間の入館者数とほぼ同数が9か月間で達成されており、前年度に比して、着実に入館者数は回復していると考えられる。令和6年度は目標値の達成には及ばないものの、これらの工夫ある取組で前年度以上の入館者数を記録した。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者数の更なる増加に向けて、引き続き周辺部での取組である「おでかけまほろん」による文化財保護活用の啓発活動、発達段階や世代に応じたイベントや注目の遺跡に焦点を当てた特別展を企画立案し、実施していく。</li> <li>・HPでの発信やチラシ作成、学校への働きかけなど、広報活動への注力も入館者増加の一因となっていると考えられることから、今後も引き続き、幅広い年代に対して広報活動に力を入れていきたい。</li> </ul>

## 推進施策5 生活文化の充実

ふくしまの生活環境の中から育まれた食文化などの生活文化の継承と振興を図ります。

- (1) 食文化の継承と振興
- (2) 生活文化等の振興

### 令和6年度の主な取組

#### (1) 食文化の継承と振興

##### ○ ふくしま'食の基本'推進事業（農産物流通課）【13,267千円】

東日本大震災と原発事故の影響により、県内の子どもが地域の食に関する体験や知識を得る機会が減少しているため、食に関する体験活動を推進するとともに、地域における食育推進活動を支援しています。

- 食育実践サポーターとして、251名登録、子どもの食育に係る授業や研修会等にのべ70人派遣した。(12月末時点)
- ふるさとの農林漁業体験支援事業として、16事業の食育に関する体験を支援した。(12月末時点)

##### ○ 元気なふくしまっ子食環境整備事業（健康教育課）【3,336千円】

食習慣、肥満等の健康課題に対応するため、栄養教諭を始めとした食育指導者の資質向上を図り、園児・児童生徒等の食生活の環境整備を行うとともに、食育の観点から地場産物活用促進のため、地場産物を活用した料理コンテストを開催し、入賞したレシピを県民に発信しています。

- 「ふくしまっ子ごはんコンテスト」(対象：小・中学生)を開催し、17,401件の応募があった。
- 栄養教室食育研修会(5月)、食環境を考える会(8月)の実施により、食育関係者に本県事業の理解が深まった。

##### ○ 観光地域づくり総合推進事業（観光交流課）【106,278千円】

地域の観光コンテンツの造成、磨き上げ、流通までの一連をサポートし、将来的な地域自走の一助とします。また、地域振興施策を展開し、地域と協働して誘客を図るほか、発酵文化をテーマとした発酵ツーリズム等の推進により多角的な誘客を図ります。

#### ● ふくしま発酵ツーリズム推進事業

- 県内の発酵体験コンテンツをタリフ化し、OTAへ掲載する等での販売につなげられるよう造成支援を行い、モニターツアーを実施した。(11/20(水)～11/21(木))
- 発酵イベントの開催及びイベントへの出展を行った。
- Instagramにおいてフィード・リール投稿を週1,2回、ストーリーズ投稿を週3,4回程度更新し情報発信を展開中。
- 美を醸すふくしまナビゲーター研修会を開催した。(全4回)

## (2) 生活文化等の振興

### ○ 福島県建築文化賞（建築住宅課）【1,382千円】

地域の周辺環境に調和し、景観上優れた建築物等を表彰し、文化的な魅力のあるまちづくりに対する意識の高揚を図っています。

- 今年度の応募作品36点に対し、8月に一次審査、10月に現地審査及び11月に最終審査を実施し、11点の受賞作品を決定した。(12月末現在)

### ○ 森林とのきずな事業（森林計画課）【15,606千円】

県民に向けた的確な森林情報の発信、森林認証制度及びJークレジット制度の普及推進及び取得支援、大学生等の森林に関する自己学習活動を支援しています。

- 大学生等の森林に関する自己学習活の支援 4グループ

## 令和7年度の主な取組予定

- ふくしま'食の基本'推進事業（農産物流通課）【13,267千円】
- 元気なふくしまっ子食環境整備事業（健康教育課）【3,384千円】
- 福島県建築文化賞（建築住宅課）【1,503千円】
- 森林とのきずな事業（森林計画課）【15,834千円】

## 指標から見た施策の進捗状況

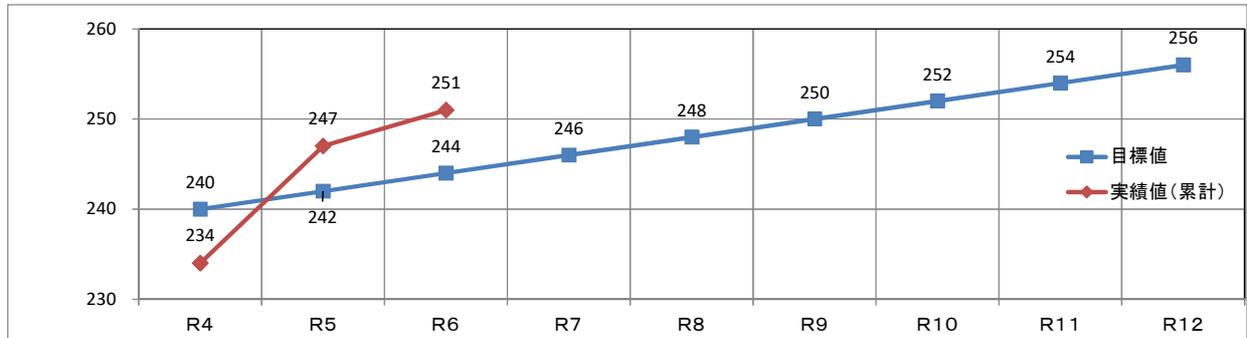
【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

### No.15 食育実践サポーター派遣事業実績(登録者数) 【目標値:256人(令和12年度)】

評価

A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	240	242	244	246	248	250	252	254	256
実績値(累計)	234	247	251	12月末時点					



達成見込	・コロナ禍が明け活動が再開されたこと、また、物価高騰等により地産地消や食育への関心が高まっていることから、新たに食育活動を実施したい者が増えたと考えられる。また、サポーターの派遣人数も増えていることから、当該事業の認知度が向上していると考えられ、目標を達成する見込み。
今後の取組	・食育実践サポーターが活動できる場を増やすため、学校や地域団体等食育に関心がある団体に対し、食育実践サポーター派遣事業を周知し、派遣費用支援やそれぞれのサポーターの得意分野を活かしたマッチングに努め、食育活動を行いやすい環境を作る。同時に食育実践サポーターを募集し、学校や地域団体等からの食育活動への派遣要請に応えられる環境を作る。

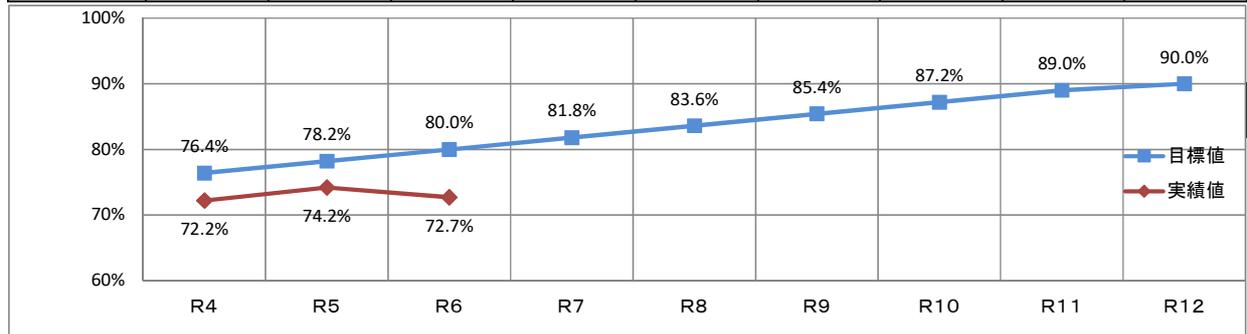
### No.16 地産産の食材を、積極的に使用していると回答した県民の割合 【目標値:90.0%以上(令和12年度)】

評価

B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	76.4%	78.2%	80.0%	81.8%	83.6%	85.4%	87.2%	89.0%	90.0%
実績値	72.2%	74.2%	72.7%						



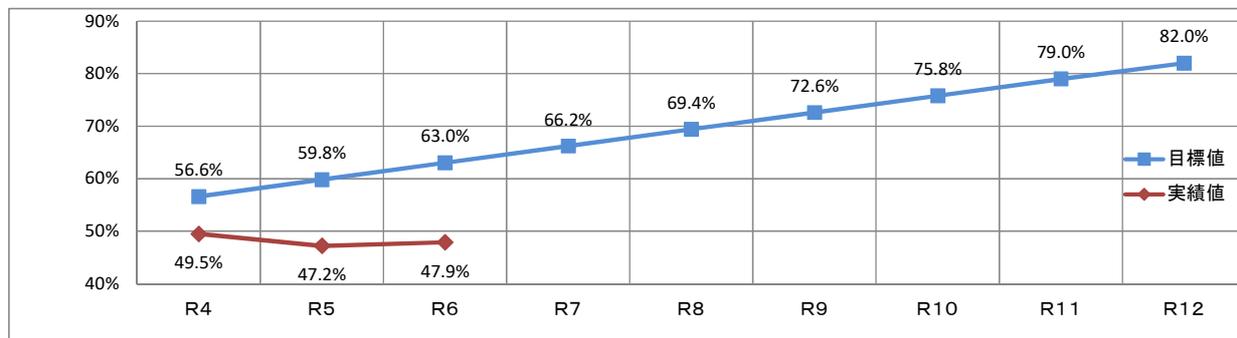
達成見込	・地場産品や郷土料理など地域の食文化の理解を深める食育活動の場が増え、地域の食文化への理解・関心は高まってきているが、実績値は前年度を下回った。
今後の取組	・幼少期から地場産品や郷土料理など、地域の食文化に触れ親しむ機会づくりを中長期的に継続していく必要がある。 ・このため、学校や企業、関係団体等による食育の推進や地域で受け継がれてきた食文化を認定する100年フード周知などに継続して取り組み、食文化や地場産品への理解を深め、地産地消の拡大につなげていく。 ・学校給食における地場産物の活用率は、目標値の50%を達成しており、継続的な達成に向けて、引き続き取組を行っている。

**No.17 本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合【目標値:82.0%以上(令和12年度)】**

評価
<b>C</b>

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	56.6%	59.8%	63.0%	66.2%	69.4%	72.6%	75.8%	79.0%	82.0%
実績値	49.5%	47.2%	47.9%						



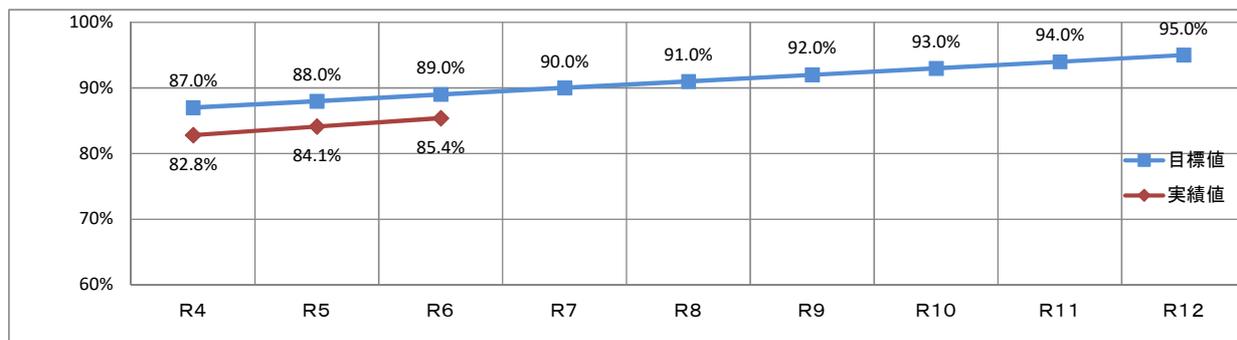
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然や美しい景観を文化的な自然として活用し、野生鳥獣との共生を図ることで、県民がその価値を再認識して保全の推進にも繋げるよう取組を進めており、前年度より数値が上昇したものの、中通り地方、会津地方については微減となった。先達山のソーラーパネルや近年のツキノワグマ等による事故等の影響も一因として考えられる。目標達成のためには更なる取組の強化が必要である。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の文化財や歴史的な建造物、街並み、美しい景観などを、文化的価値のある資源として活用していくため、観光や産業との連携を促進していく。</li> </ul>

**No.18 自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合【目標値:95.0%以上(令和12年度)】**

評価
<b>B</b>

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	87.0%	88.0%	89.0%	90.0%	91.0%	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%
実績値	82.8%	84.1%	85.4%						



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8割以上の県民が自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答しており、伝統を継承していく重要性は多くの県民に認識されており、概ね目標を達成した。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの県民に伝統文化の重要性を再認識してもらうため、地域に伝わる民俗芸能の継承や再開の支援、発表の機会の確保に引き続き努めていく。</li> <li>・文化財を含めた伝統文化を地域のたからとして継承しつつけていくために、文化財保存活用地域計画の作成支援や、観光など地域で様々な形で活用し、その価値や役割を高めていく。</li> </ul>

## 推進施策6 文化活動を行う拠点の機能の充実

文化活動の拠点である各文化施設等について、県民の多様なニーズに対応するため、整備や機能の充実を図るとともに、県民の利用促進のために文化施設相互の連携促進など運営の充実を図ります。また、地域と連携し、地域文化についての理解を深める文化観光の推進における中核としての機能も充実させていきます。

(1) 文化施設の機能の充実・連携の促進

### 令和6年度の主な取組

(1) 文化施設の機能の充実・連携の促進

#### ○ 福島県文化センターの管理運営（文化振興課）【1,013,934千円】

県民の芸術及び文化の振興を図るために設置した福島県文化センターの維持管理、芸術の振興に資する事業を支援しています。（大ホール客席天井復旧・改修工事及び空調設備改修工事を実施）

#### ○ 美術館施設整備事業（施設財産室）【22,702千円】

県立美術館の修繕等を計画的に行っています。

#### ○ 博物館施設整備事業（施設財産室）【113,668千円】

県立博物館の修繕等を計画的に行っています。

#### ○ 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【446,759千円】

複合災害の記録と教訓を後世に伝えるとともに、復興に向けて力強く進む福島県の姿やこれまで国内外からいただいた御支援に対する感謝の思いを発信するため、東日本大震災・原子力災害伝承館を運営しています。（施設の維持・管理運営事業、施設修繕事業）

##### ■ 資料収集・展示

- ◆ 1,248点の資料を収集（令和6年12月末現在）
- ◆ 企画展示は2回実施、他県での巡回展示は4回実施

##### ■ 調査研究

- ◆ 令和6年12月に活動報告会開催
- ◆ 令和7年3月に東日本大震災及び原子力災害の研究者を集めて学術研究集会を開催予定

##### ■ 学習機会の提供

- ◆ 280団体12,806名が一般研修プログラムを受講し、4団体97名が館長及び上級研究員による専門講座を受講（令和6年12月末時点）

#### ○ ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の管理運営（生涯学習課）【593,943千円】

海に関する文化・科学の学習機会を提供するための拠点施設として設置したふくしま海

洋科学館（アクアマリンふくしま）の維持管理、展示資料等の更新に資する事業を支援しています。（施設の維持・管理運営事業、利用料金免除補助事業、施設修繕事業）

#### ○ 文化観光拠点施設機能強化事業（社会教育課）【59,932千円】

「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定し、県立博物館を文化観光の拠点施設として、若松城跡周辺の「会津のSAMURAI文化エリア」や「若松城下の商工文化エリア」、奥会津の「雪国のくらしとものづくり文化エリア」を訪れる観光客等の周遊を促進する取組を行っています。

- 外構展示、体験型プログラム、若松城から博物館への案内看板整備、映像資料の多言語化、多言語コンテンツ配信システム構築、まちなか連携、障がい者観覧支援、雪国ものづくりマルシェ（春、秋）、WEBサイトの一元化等を実施【12月末現在】。

#### 令和7年度の主な取組予定

- 福島県文化センターの管理運営（文化振興課）【2,802,096千円】
- 美術館施設整備事業（施設財産室）【81,787千円】
- 博物館施設整備事業（施設財産室）【13,083千円】
- 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【426,300千円】
- ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の管理運営（生涯学習課）【558,856千円】
- 文化観光拠点施設機能強化事業（社会教育課）【10,007千円】

## 指標から見た施策の進捗状況

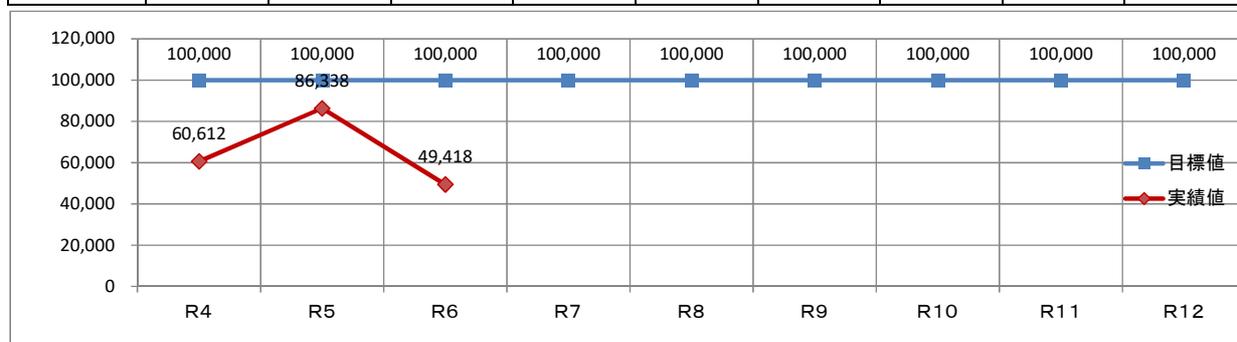
【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

### (再掲)No.4 県立美術館の入館者数 【目標値:100,000人(令和12年度)】

評価  
D  
(見込)

#### ※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
実績値	60,612	86,338	49,418	12月末時点					



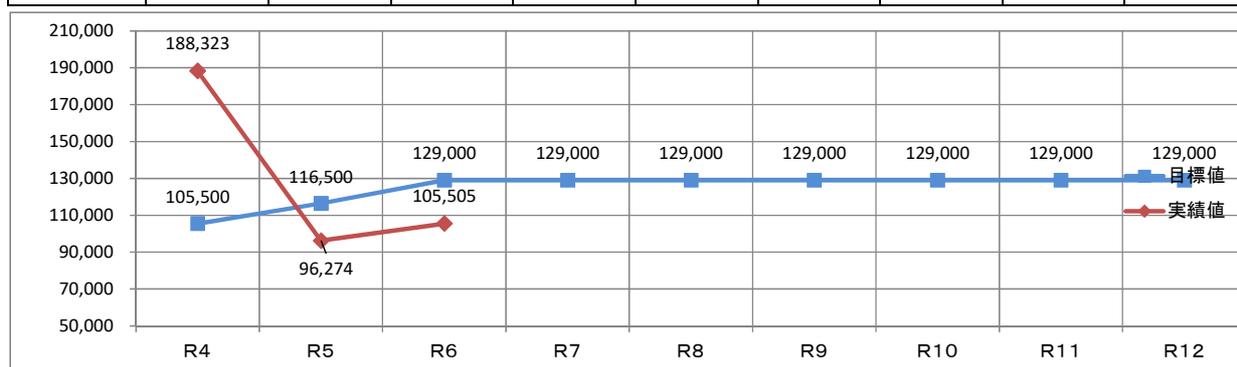
達成見込	<p>・令和5年度は、大規模企画展を4月から8月にかけて2展実施するなど集客に努めた結果、目標達成とまではならなかったが、前年度比1.4倍となった。令和6年度は、観覧者アンケートで「今後見たい企画展」の上位にある日本画展や開館40周年記念展等を開催するとともに、「トークフリーデー」など新たな取組の実施や、美術に関心の薄い層にもアピールできるよう、テレビ・雑誌・新聞など、幅広いメディアへの掲載を強化したものの、大規模企画展のような継続した広報とまではいかず、12月末時点で目標達成率49.4%となっており、目標達成は困難な見込みである。</p>
今後の取組	<p>・来館者のアンケート結果や、他館の入館状況も踏まえ、人気の高い大型企画展や注目度の高い自主企画展など、県民等のニーズに即した企画展をバランスよく開催する。</p> <p>・企画展との連動や時節に即した内容を考えながら、常設展を企画する。</p> <p>・新聞、テレビ、HP、SNSなど多様な媒体を活用し、どの年齢層にも、企画展の内容や魅力を、わかりやすく伝わるような表現で、企画展開始前から繰り返し広報する。</p> <p>・安心して来館いただける環境を維持する。そのために、美術館への要望のうち、対応できる内容については、可能な限り速やかに対応する。</p>

### (再掲)No.5 県立博物館の入館者数 【目標値:129,000人(令和12年度)】

評価  
B  
(見込)

#### ※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	105,500	116,500	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000
実績値	188,323	96,274	105,505	12月末時点					



達成見込	<p>・令和6年2月に排煙設備の不具合により、総合展示室を観覧休止としており、各学校の団体利用については、問い合わせの際に個別に事情を説明し、御理解いただいたうえで総合展示室以外の展示を観覧いただいていたが、その影響もあり、例年より小中学校団体利用が減少するなど、特に学校教育活動における影響が大きい。</p> <p>・今年度は、自主開催のみの企画展であったことや、12月2日からトイレ改修工事による全館休館(予定では3月31日まで)となったため、目標としていた入館者数に及ばず、目標は未達成となった。</p>
今後の取組	<p>・総合展示室の排煙窓については、工事を実施中であり、建築基準法施行令第126条の2(排煙設備の設置)に適合させ、令和7年4月に全館の観覧再開を目指す。</p> <p>・トイレの洋式化、段差の解消などのバリアフリー化の工事を実施中であり、障がい者や乳幼児のいるファミリー層、高齢者も安心して観覧できる環境整備を行う。</p> <p>・展示室のサイン表示・解説等の多言語化、スマホ等で観覧や周遊のための情報を入手できるコンテンツ配信システムについて令和7年4月の全館観覧再開時から運用開始することにより、来館者の利便性向上と、インバウンド、外国語ユーザー増につなげる。</p> <p>・三の丸からプロジェクトの成果継承や発展を目指し、関係機関と事業体制や取組内容について検討していく。</p>

(再掲)No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数  
【目標値:75,000人(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	50,000	57,000	63,000	65,000	67,000	69,000	71,000	73,000	75,000
実績値	80,119	93,759	71,398	12月末時点					

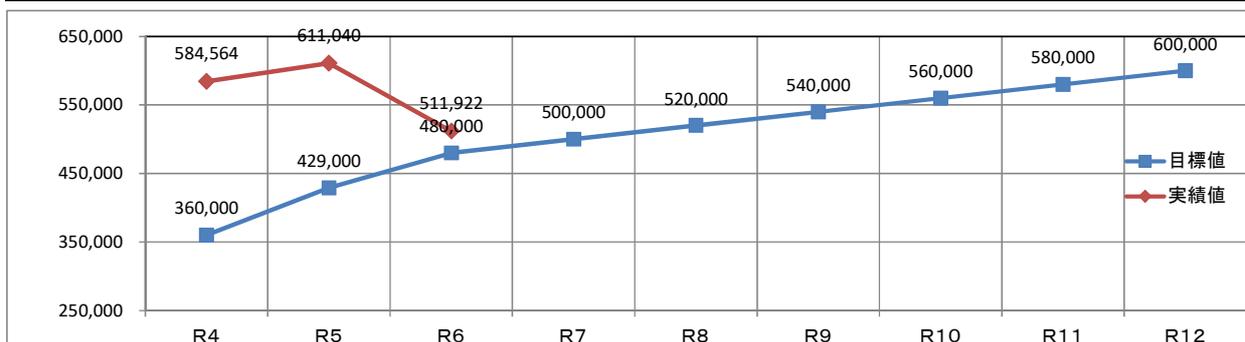


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度以降、入館者数・研修参加者数のいずれも、令和12年度の目標値を既に上回って推移している。</li> <li>令和6年度の入館者数であるが、令和5年12月31日時点で77,712人であったことを踏まえると、令和5年度比ではやや減少する見込みである。</li> <li>令和6年度の研修参加者数は、令和6年12月31日時点で、昨年度同時点での12,286人とほぼ同程度の参加者数であることから、令和5年度並の参加者を見込んでいる。</li> <li>新型コロナによる行動制限期間中は、伝承館のように静かに見学できる博物館等が教育旅行先等に採用されてきたが、令和5年度に第5類に移行し行動制限が解除されたことにより、訪問先として観光地等が選好され、入館者数が伸び悩んでいる。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝承館としての学びの魅力を維持・向上させていくため、計画的で分かりやすい展示内容の更新、魅力的な企画展の開催、研究事業の成果を踏まえた研修プログラムを充実させていく。</li> <li>地元自治体や商工団体、農業団体、福島イノベーション・コースト構想の各拠点などの関係団体等と連携しながら、情報発信やプロモーション活動に取り組むことで、震災の教訓や復興する地域の姿、新たな魅力を発信していく。</li> <li>先月に発表した、主に中学生を中心とした事前学習教材を新たに導入することにより、次の世代を担う子供たちに、効果的で理解しやすい伝承館の見学に結びつける取り組みを行っていく。</li> </ul>

(再掲)No.7 アクアマリンふくしまの入館者数  
【目標値:600,000人(令和12年度)】

評価
A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	360,000	429,000	480,000	500,000	520,000	540,000	560,000	580,000	600,000
実績値	584,564	611,040	511,922	12月末時点					



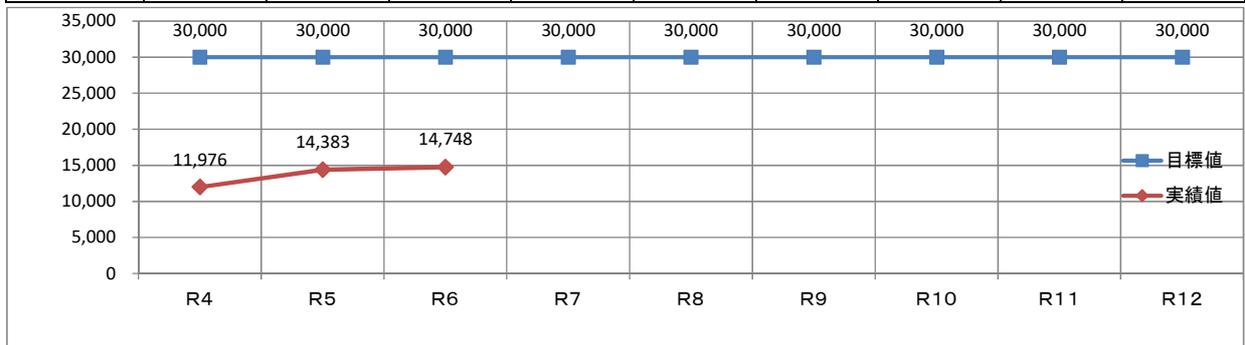
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>R6年度の入館者数は、魅力的な企画展の開催、積極的な情報発信により、引き続き、当館の魅力を広く発信できたことにより入館者数を伸ばし、既に目標を達成した。</li> <li>スクール開催事業は、業務量が膨大なことから、実施方法や回数、参加人数、広報などの見直しに加え、内容をより魅力的なものとしたことで、受講者数は既に目標を達成した。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>縄文の里のリニューアルなどにより、引き続き、施設の魅力を向上させてゆく。</li> <li>魅力ある企画開催事業を展開し、近隣施設と連携した情報発信を行っていく。</li> <li>スクール開催事業は、見直し後の実施結果を踏まえ、より魅力的なものとなるようブラッシュアップしていく。</li> <li>博物館法上の博物館として、学術的取組を始め、地域の観光・交流拠点としての役割を果たしていく。</li> </ul>

(再掲)No.8 県文化財センター白河館の入館者数  
【目標値:30,000人(令和12年度)】

評価
D (見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	11,976	14,383	14,748	12月末時点					

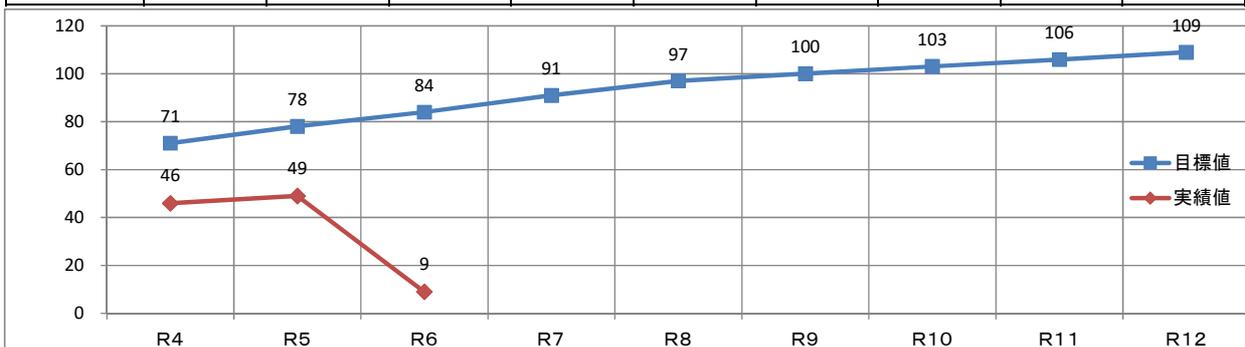


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層を中心に多くの参加があったイベント「まほろん感謝デー」や、大きな歴史的価値があり県内外から注目されている遺跡である「前田遺跡」出土品の特別展示の取組により、新規入館者やリピーターの増加につながっていることが、入館者の感想からうかがえた。</li> <li>・コロナ禍により、前年度前半まで厳しい状況が続いていたが、昨年度の1年間の入館者数とほぼ同数が9か月間で達成されており、前年度に比して、着実に入館者数は回復していると考えられる。令和6年度は目標値の達成には及ばないものの、これらの工夫ある取組で前年度以上の入館者数を記録した。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者数の更なる増加に向けて、引き続き周辺部での取組である「おでかけまほろん」による文化財保護活用の啓発活動、発達段階や世代に応じたイベントや注目の遺跡に焦点を当てた特別展を企画立案し、実施していく。</li> <li>・HPでの発信やチラシ作成、学校への働きかけなど、広報活動への注力も入館者増加の一因となっていると考えられることから、今後も引き続き、幅広い年代に対して広報活動に力を入れていきたい。</li> </ul>

(再掲)No.9 福島県文化センター利用料金免除件数  
【目標値:109件(令和12年度)】

評価
—

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	78	84	91	97	100	103	106	109
実績値	46	49	9						



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な改修工事を実施するため、令和6年7月15日より文化会館を休館したことから、令和6年度の実績は4月～7月までの実績は9件となっている。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、改修工事を着実に実施する。(改修工事終了後、令和8年7月以降で開館の準備が整い次第、文化会館の再開を予定している。)</li> </ul>

## 推進施策7 文化の交流の推進

地域やジャンルを超えた多様な文化交流を推進するとともに、東日本大震災・原子力災害の記録や教訓等を次世代に引き継ぎながら、復興の状況とともに全国に向けて発信し、交流の拡大につなげます。

- (1) 文化の発信と交流の充実
- (2) 東日本大震災・原子力災害からの復興と教訓の発信

### 令和6年度の主な取組

#### (1) 文化の発信と交流の充実

##### ○ 第18回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,198千円】

全国トップレベルの声楽アンサンブルグループによるコンテストを開催し、音楽文化の更なる発展を図るとともに、歌うことの楽しさや「合唱王国ふくしま」を全国に発信します。

- 開催日：令和7年3月20日（木・祝）～3月23日（日）
- 20日～22日に部門別コンテスト（小学校・ジュニア、中学校、高等学校、一般の4部門）を行い、23日に本選を行う。
- 出場団体数（予定）：135団体  
※部門別コンテストの演奏時間の見直しを行うなどにより、出場団体数が増加
- 7年振りに海外団体出演（予定）

##### ○ 教育旅行復興事業（観光交流課）【297,676千円】

県内宿泊を伴う教育旅行を実施する県外学校に対するバス経費の一部助成を行ってまいります。また、ホープツーリズムを核とした探究学習プログラムの磨き上げ・周知のための教育関係者向けモニターツアー、合宿関係施設の広域連携促進による受入体制の強化等を行うとともに、継続的な情報発信・営業活動を実施します。

- バス経費助成事業交付決定件数 1,307件（12月末時点）
- モニターツアー 6件実施

##### ○ 東京2025デフリンピック関連復興推進事業（スポーツ課）【32,545千円】

2025年にJヴィレッジでサッカー競技が開催される「東京2025デフリンピック」を契機に、デフスポーツの体験機会の創出やろう者の文化への理解促進を進めるとともに、大会開催に向けた機運醸成等の一連の取組を通じて、共生社会の実現と本県の復興の加速化を図っています。

- 東京2025デフリンピック1年前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」の開催
- 大会開催300日前イベントの開催
- 子どもたちが手話に関心を持つ機会を提供するための出前講座を実施（保健福祉部実施）

## (2) 東日本大震災・原子力災害からの復興と教訓の発信

### ○ [再掲] 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業(生涯学習課)【446,759千円】

複合災害の記録と教訓を後世に伝えるとともに、復興に向けて力強く進む福島県の姿やこれまで国内外からいただいた御支援に対する感謝の思いを発信するため、東日本大震災・原子力災害伝承館を運営しています。(施設の維持・管理運営事業、施設修繕事業)

### ○ 東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業(生涯学習課)【37,129千円】

県内外の小中高の児童・生徒が東日本大震災・原子力災害伝承館を活用して行う学習活動を支援するためにバス代への補助を行っています。

- バス補助：延べ88校、バス189台、人数6,474人(児童生徒及び引率者)
- 入館料補助：16,600人程度(令和6年12月末時点)

### ○ 震災・原発災の経験・教訓、復興状況伝承事業(生涯学習課)【7,030千円】

福島県の子どもたちが、県内で復興・再生に邁進している団体等に対して取材を行い、震災の経験や教訓、復興に向けての取組を学び、ふるさとの良さや未来について考え、自分の言葉で新聞にまとめ、発信することにより、ふるさとへの愛着心を育むとともに、ふくしまの復興を広く国内外に発信します。

- ジャーナリストスクールの開催
  - ◆ 開催日：令和6年8月8日(木)開校式・取材、10日(土)～11日(日)新聞作成  
令和6年8月17日(土)発表会・閉校式
  - ◆ 場所：東日本大震災・原子力災害伝承館、相双地区他  
郡山市青少年会館、郡山市市民交流プラザ
  - ◆ 受講生 県内の小学5年生～高校生 37名
  - ◆ 発表会参観者 90名、特別講師 池上彰氏

### ○ 次世代へつなぐ震災伝承事業(生涯学習課)【19,993千円】

次世代への震災の記憶と教訓の伝承を図るため、語り部団体等のネットワーク化や人材育成、県外等への語り部派遣を行うことで、語り部等の持続的な活動の仕組みづくりに取り組んでいます。

- ネットワーク化・レベルアップ
  - ◆ 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議を2回開催(6月、2月(予定))
  - ◆ 3.11被災地視察研修(ふくしま語り部ネットワーク会議会員対象)で11月に石巻市、南三陸町を訪問
  - ◆ ふくしま震災伝承者交流会を11月に富岡町で開催し、80人が参加
- 人材育成
  - ◆ 伝承者育成検討プロジェクトチーム会議を2回開催(5月、1月)

- ◆ 伝承者育成講座を4回開催（予定含む）（延べ受講者数54人）
- ◆ 伝承者英語講座を4回開催（予定含む）（延べ受講者数12人）
- 県外への語り部派遣
  - ◆ 42件派遣（東北7、関東16、中部7、関西3、中国1、四国2、九州・沖縄6）

### ○ 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【18,162千円】

震災と復興に関する地域課題探究活動を通して、福島における震災、復興、未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることでできる高校生を育成に取り組んでいます。この過程で思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、県内外の高校生等との交流を通して震災に関わる風化防止、風評払拭につなげています。

- 実践校を18校指定。各校とも計画に基づき展開中。
- 伝承館研修校を20校指定。各校とも計画に基づき展開中。
- 小中高の若手教員を対象に東日本大震災・原子力災害伝承館等において研修を実施。

### ○ ホープツーリズム運営・基盤整備事業（観光交流課）【217,932千円】

ホープツーリズムの関連コンテンツ、モデルコース等の最新情報を整理・集積した総合窓口及びサポートセンターの整備・運営・情報発信を行うとともに、企業等の人材育成研修プログラムの造成、企業関係者を対象としたモニターツアーによる検証・磨き上げ、一般観光客向けの旅行商品造成支援等の実施により、ホープツーリズムのさらなる深化・拡大を図っています。

- ホープツーリズムサポートセンターの運営を行い、モニターツアーを実施。
- 企業等の人材育成研修、総合案内人（FP）育成研修を実施。
- リピーター獲得対策を実施。

## 令和7年度の主な取組予定

- 第19回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,198千円】
- 教育旅行復興事業（観光交流課）【288,942千円】
- 東京2025デフリンピック関連復興推進事業（スポーツ課）【84,488千円】
- 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【426,300千円】
- 震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業（生涯学習課）【7,715千円】
- [再掲] 東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業（生涯学習課）【32,176千円】
- 次世代へつなぐ震災伝承事業（生涯学習課）【24,992千円】
- 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【17,187千円】
- ホープツーリズム運営・基盤整備事業（観光交流課）【216,659千円】
- ホープツーリズム拡充等浜通り観光支援事業（観光交流課）【164,443千円】

## 指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

### No.19 福島県教育旅行学校数 【目標値:8,100校(令和12年度)】

評価

—

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	4,100	4,600	5,100	5,600	6,100	6,600	7,100	7,600	8,100
実績値	5,065	5,501	調査集計はR7に実施						



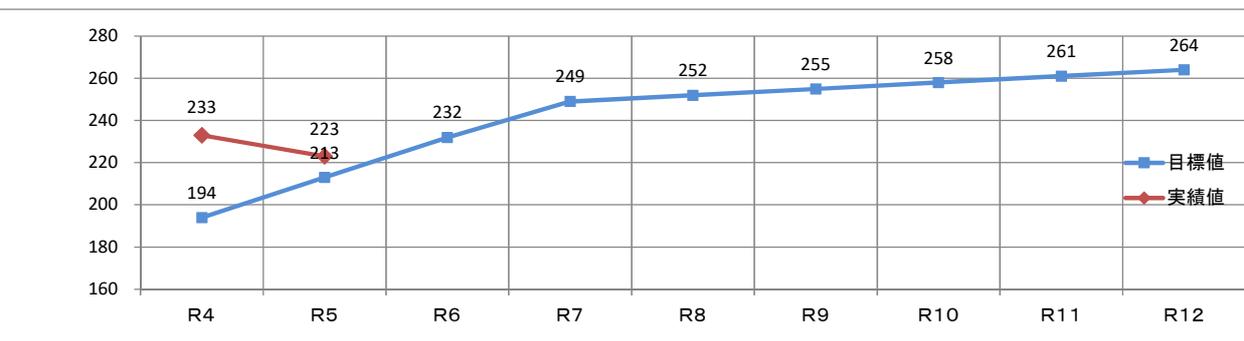
令和4年度と令和5年度の比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度の学校数(5,501校)は、新型コロナウイルス感染症による影響が残るものの、は東北・近隣県・首都圏等からの来訪の増加により、回復の兆しが見られる。</li> <li>※令和6年度の学校数については来年度調査予定。(令和7年10月頃判明見込)</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育旅行先を本県とする北関東圏の学校が増加していることを踏まえ、ターゲットを絞って営業活動を行っている。</li> <li>探究型プログラムを充実させ、教育旅行の多様なニーズに応えられる体制を整える。</li> <li>過年度のバス助成実績データの分析によりターゲットを明確にし、バス助成事業を活用した営業活動を継続して実施する。</li> </ul>

### No.20 声楽アンサンブルコンテスト全国大会の推薦及び公募団体数 【目標値:264団体以上(令和12年度)】

評価

—

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	194	213	232	249	252	255	258	261	264
実績値	233	223	集計中						



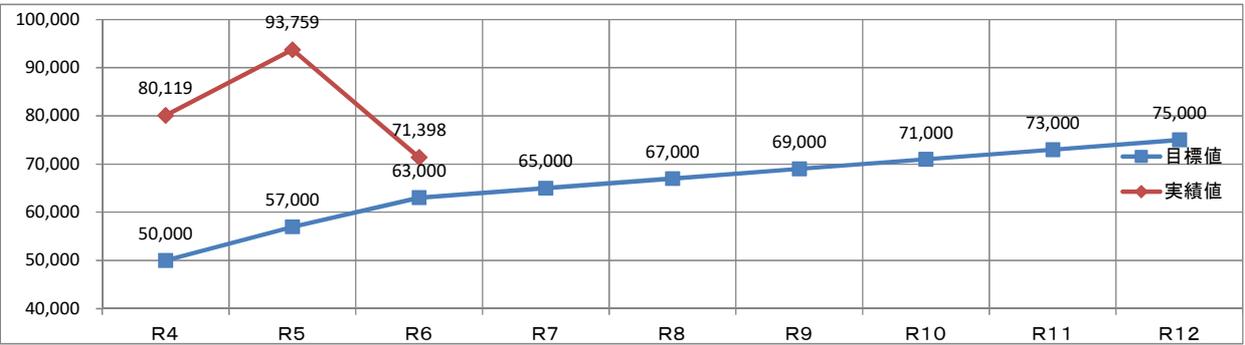
令和4年度と令和5年度の比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>R5年度は、全国の合唱連盟への継続したPRや、R3年度から開設したX(旧Twitter)を活用した広報(フォローワーはR6年1月末時点で1,500人超)など周知に努め、全国大会として認識が定着するなどの結果、過去最多となる42都道府県からの推薦団体の申し込みがあり、目標を上回った。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度には部門別コンテストの演奏時間の見直しを行うなど、出場団体数を増やしていくための検討・協議を進めているところであり、引き続き、関係者と申し込み団体数の増加に向け、検討を重ねていく。</li> </ul>

(再掲)No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数  
【目標値:75,000人(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	50,000	57,000	63,000	65,000	67,000	69,000	71,000	73,000	75,000
実績値	80,119	93,759	71,398	12月末時点					



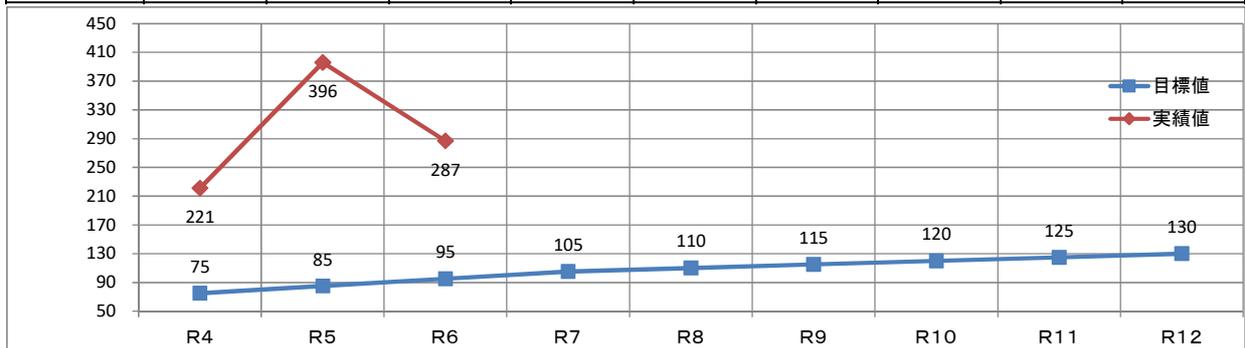
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度以降、入館者数・研修参加者数のいずれも、令和12年度の目標値を既に上回って推移している。</li> <li>令和6年度の入館者数であるが、令和5年12月31日時点で77,712人であったことを踏まえると、令和5年度比ではやや減少する見込みである。</li> <li>令和6年度の研修参加者数は、令和6年12月31日時点で、昨年度同時点での12,286人とほぼ同程度の参加者数であることから、令和5年度並の参加者を見込んでいる。</li> <li>新型コロナによる行動制限期間中は、伝承館のように静かに見学できる博物館等が教育旅行先等に採用されてきたが、令和5年度に第5類に移行し行動制限が解除されたことにより、訪問先として観光地等が選好され、入館者数が伸び悩んでいる。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝承館としての学びの魅力を維持・向上させていくため、計画的で分かりやすい展示内容の更新、魅力的な企画展の開催、研究事業の成果を踏まえた研修プログラムを充実させていく。</li> <li>地元自治体や商工団体、農業団体、福島イノベーション・コースト構想の各拠点などの関係団体等と連携しながら、情報発信やプロモーション活動に取り組むことで、震災の教訓や復興する地域の姿、新たな魅力を発信していく。</li> <li>先月に発表した、主に中学生を中心とした事前学習教材を新たに導入することにより、次の世代を担う子供たちに、効果的で理解しやすい伝承館の見学に結びつける取り組みを行っていく。</li> </ul>

No.21 ホープツーリズム催行件数  
【目標値:130件(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	75	85	95	105	110	115	120	125	130
実績値	221	396	287	11月末時点					



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年9月に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館の見学を中心とした伝承館プログラムの依頼が増加したことに加え、R3秋以降のコロナ禍による教育旅行の行き先変更や、本県でしか得られない新しい学びのスタイルが評価されたこと等により、令和5年度は目標を大幅に上回った。なお、今後も目標値以上の件数が見込まれることから、現在県総合計画の指標を見直し中(R6年度内)</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝承館プログラムの対応ができるフィールドパートナーの人材育成を行い、その中から、更に1泊2日のホープツーリズムに対応できるフィールドパートナーの人材育成を行う。</li> <li>インバウンドにも対応できるよう英語対応が可能なフィールドパートナーの育成研修を行う。</li> <li>企業研修版ホープツーリズムの顧客獲得に向けて、プログラムの造成・検証を行い、PR動画を活用した営業を行う。</li> </ul>

※ホープツーリズム: 複合災害の教訓等から持続可能な社会・地域づくりを学ぶツアー  
 ※フィールドパートナー: ツアー中のアテンドや学びを支援する方(教育旅行を担当)  
 ※ホープツーリズムガイド: 一般観光客向けのガイド

## 推進施策8 文化振興による地域づくり

地域の祭りや伝統行事、歴史的な建造物など多様な資源の文化的価値をいかして、地域コミュニティの維持・強化や、産業、観光等の様々な分野との連携による魅力づくりなどの地域活性化に取り組みます。

(1) 文化資源をいかした産業等の振興・地域づくり

### 令和6年度の主な取組

(1) 文化資源をいかした産業等の振興・地域づくり

#### ○ チャレンジふくしま県民運動推進事業（文化振興課）【30,204千円】

「人も地域も笑顔で元気なふくしま」を実現するため、健康、運動、食、文化等の関係団体が連携し、県民一人一人の日常的な健康づくりの実践のみならず、地域全体の盛り上がりにつながるよう、多方面から健康への気付きやきっかけづくりの提供等を行います。

##### ● 「ふくしまアートウォーキング」

- 9月から、アートとウォーキングを組み合わせた取組として、開始した。

9/4 ふくしまアートウォーキングオープニングイベント

9/5～1/31 ふくしまアートスポット Instagram キャンペーン

9/28、10/12、10/26 アートウォーキングモデルコース体験イベント

10/26～1/31 アートスポットスタンプラリー

#### ○ 「ふくしまの棚田」魅力・認知度アップ事業（農村振興課）【3,510千円】

棚田を核とした地域振興を図るため、棚田地域の魅力向上を支援するとともに、棚田に対する認識を広めるための情報発信等に取り組んでいます。

- 棚田地域振興法に基づく棚田指定地域 11地域（旧市町村）

同 棚田地域振興活動計画認定 7棚田協議会

- 「ふくしまの棚田」推し活デジタルスタンプラリー2024

- 「ふくしまの棚田」推し活フェア2024

- 5棚田保全組織に補助金交付

#### ○ 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（地域振興課）【200,197千円】

「自然のなかに暮らすいとなみ、100年先のみらいへ」を基本理念として、本県を代表する水力発電地域である只見川流域7町村が実施する地域振興を支援しています。

- 只見川流域7町村で構成する只見川電源流域振興協議会が行う只見川流域の振興に資するソフト事業1事業と各構成町村が行うハード事業4事業の計5事業を支援した。

① 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（只見川電源流域振興協議会）

② 中丸城跡登山道整備事業（金山町）

③ 只見駅前複合施設整備事業（只見町）

④ 旧伊南小学校跡地利用事業（南会津町）

⑤ 中土合公園改修事業（檜枝岐村）

○ **福島ゆかりのコンテンツによる地域活力創造事業（地域振興課）【36,962千円】**

本県ゆかりの特撮等のコンテンツを地域の宝として見直す機運を醸成し、これらを有効に活用しながら交流人口の拡大や福島県全域の活力創出を図るとともに、市町村や関係団体と連携して、地域経済の活性化を目指します。

- 「大冒険！ウルトラマンARスタンプラリーin ふくしま 2024」の開催
  - 参加者数（※アプリのユニークユーザー数）：21,995名
  - 施設周遊数（※ユーザーによるスタンプ獲得数）：74,144個
- 特撮文化推進事業実行委員会事業への参画
  - 「ふくしま特撮検定 2024」の開催（7/7～7/31） 126名参加
  - 特撮ワークショップの実施（9/8 矢吹町） 73名参加
  - 特撮レジェンドオーラルヒストリー成果物公開（9/9） R4に収録した特技監督・佐川和夫氏のインタビュー記録を映像、文字データで公開
  - 特撮映画上映会の開催（2/2 須賀川市）

○ **国際芸術鑑賞事業（文化振興課）【77,157千円】**

世界的に著名な画家ファン・ゴッホの展覧会を令和8年と令和9年に県立美術館で開催し、県民に感動や元気を届けるとともに、未来を担う子どもたちの育成を図っていきます。

- 令和6年度は、実行委員会を設置し、関係者で展覧会の準備を進めている

**令和7年度の主な取組予定**

- チャレンジふくしま県民運動推進事業（文化振興課）【30,204千円】
- 「ふくしまの棚田」魅力・認知度アップ事業（農村振興課）【2,929千円】
- 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（地域振興課）【200,187千円】
- 福島ゆかりのコンテンツによる地域活力創造事業（地域振興課）【36,962千円】
- 国際芸術鑑賞事業（文化振興課）【2,157千円】
- ふくしまデスティネーションキャンペーン事業（観光交流課）【555,235千円】

## 指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

(再掲)No.17 本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合【目標値:82.0%以上(令和12年度)】

評価

C

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	56.6%	59.8%	63.0%	66.2%	69.4%	72.6%	75.8%	79.0%	82.0%
実績値	49.5%	47.2%	47.9%						



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな自然や美しい景観を文化的な自然として活用し、野生鳥獣との共生を図ることで、県民がその価値を再認識して保全の推進にも繋げるよう取組を進めており、前年度より数値が上昇したものの、中通り地方、会津地方については微減となった。先達山のソーラーパネルや近年のツキノワグマ等による事故等の影響も一因として考えられる。目標達成のためには更なる取組の強化が必要である。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の文化財や歴史的な建造物、街並み、美しい景観などを、文化的価値のある資源として活用していくため、観光や産業との連携を促進していく。</li> </ul>

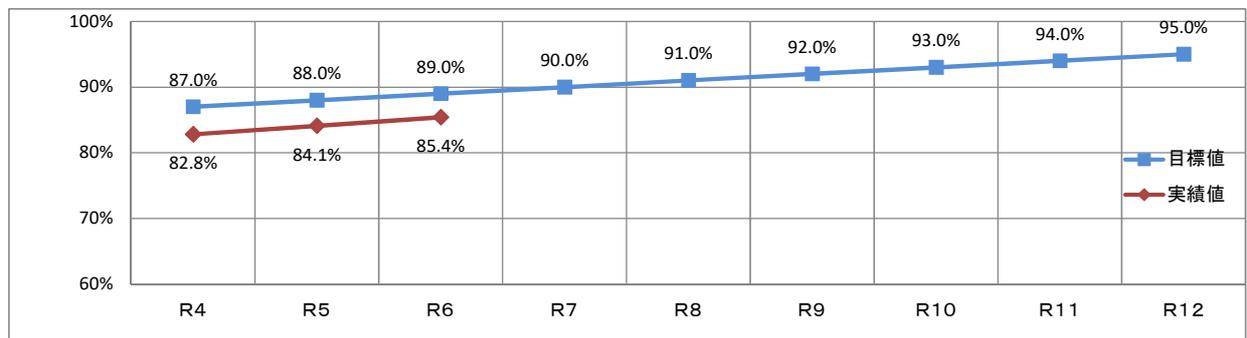
(再掲)No.18 自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合【目標値:95.0%以上(令和12年度)】

評価

B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	87.0%	88.0%	89.0%	90.0%	91.0%	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%
実績値	82.8%	84.1%	85.4%						



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>8割以上の県民が自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答しており、伝統を継承していく重要性は多くの県民に認識されており、概ね目標を達成した。</li> </ul>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの県民に伝統文化の重要性を再認識してもらうため、地域に伝わる民俗芸能の継承や再開の支援、発表の機会の確保に引き続き努めていく。</li> <li>文化財を含めた伝統文化を地域のたからとして継承しつづけていくために、文化財保存活用地域計画の作成支援や、観光など地域で様々な形で活用し、その価値や役割を高めていく。</li> </ul>

## No.22 観光客入込数

【目標値：60,000千人(令和12年)】

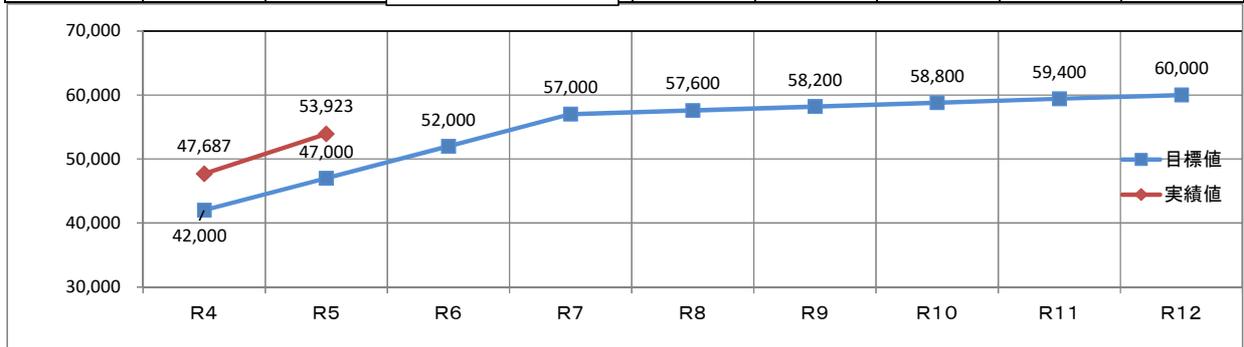
評価

—

※県総合計画指標

(単位：千人)

年	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	42,000	47,000	52,000	57,000	57,600	58,200	58,800	59,400	60,000
実績値	47,687	53,923	調査集計はR7に実施						



令和4年度と令和5年度の比較	<p>・R5指標については、対前年比で6,236千人増(+13.1%)の47,687/53,923千人の実績となった。令和5年5月に新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、前年と比較して入込数が増加した。</p>
今後の取組	<p>・安定的で継続的な観光需要を獲得するには、「地域としての魅力」により「ふくしま」のファンを獲得する必要がある。中長期的な視点を持って地域の観光を育てる必要がある。そのため県内各地域の関連団体等に対し、人材確保や観光コンテンツの掘り起こし・磨き上げなどのフォローアップを実施し、将来、地域が主体となって観光づくりを進めていけるよう支援する。</p>

## No.23 国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)があると回答した県民の割合

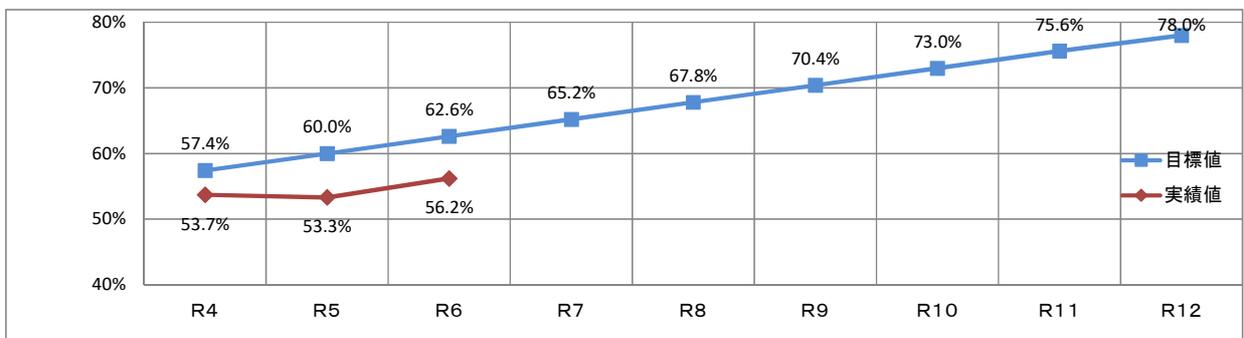
【目標値：78.0%以上(令和12年度)】

評価

B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	57.4%	60.0%	62.6%	65.2%	67.8%	70.4%	73.0%	75.6%	78.0%
実績値	53.7%	53.3%	56.2%						



達成見込	<p>・県内各地の風土に培われた地域の民俗芸能、合唱王国福島に代表される芸術文化、食や美しい自然・伝統工芸など福島の魅力の発信を通じて、県民が多様な文化資源を地域の宝として再認識することで、地域への誇りや愛着を育み、数値が上昇した。</p>
今後の取組	<p>・地域のまつりや民俗芸能など伝統文化の継承や発展、地域の文化財の保存や活用促進、芸術文化の発表や鑑賞機会の確保などに努め、地域への誇りや愛着を高める取組を進めていきます。</p>

